

令和4年度指定(第4年次)

スーパーサイエンスハイスクール 研究開発実施報告書

大阪府立岸和田高等学校



Super Science High School Research and
Development Report 2025-2026



令和8年3月

巻 頭 言

本校は令和4年度からスーパーサイエンスハイスクール（SSH）実践型第Ⅲ期の指定を受け、協創型「温故知新」プログラムによる科学技術人材の育成と地域と取り組む探究ネットワークの構築に取り組んでおり、今年度が第Ⅲ期4年めとなります。

協創型「温故知新」プログラムでは、1～3年次の学校設定科目をすべて木曜6限に同時展開し、学年を超えた生徒どうしの縦のつながりを強化する「縦割り型課題研究」、地域と協働して生徒の好奇心を刺激し自主性を引き出す「課題解決型プロジェクト学習」、生徒の興味・関心に基づく研究テーマにより分類し、すべての教員が教科の枠を超え指導にあたる「文理融合型課題研究」、各学年募集定員20名の生徒を対象に3年間を通してサイエンスリーダーを養成する特化型プログラム“プロジェクトNova”、本校の取組の普及・還元をめざし近隣の小・中学校や高等学校との連携拡大を図る「課題研究発表会」や「探究学習情報交換会」の実施と、有識者・専門家や地域と協働しながら生徒を育て支援するための持続可能な探究ネットワークの構築をめざした「泉州サイエンスポートフォリオ」や「岸高デジタルサロン」の開発の8つを、研究開発テーマとしています。

第Ⅲ期3年めとなり3学年が揃った昨年度には、木曜6限3学年同時展開実施のための全校指導体制構築に向けて、SSH事業を推進する新たな校務分掌「SSH探究部」を設置しました。あわせて、研究テーマの分類を「数理・自然科学」「情報・芸術」「地域・健康」「社会・異文化」「人文・人間」の5つの学域に整理し直すとともに、すべての教員がいずれかの学域に所属して、その学域の生徒を指導する体制を構築しました。そして、「SSH探究部」の部員5名が各学域の「学域長」として、各学域間の連携と当該学域に分類された研究実施にかかる調整・取りまとめ役を担うことにしました。

第Ⅲ期での課題としていた「生徒による研究のさらなる深化」「指導ノウハウの継承」「より突出した科学技術人材の育成」に対して、探究活動実施に向けたカリキュラムや全校指導体制などを構築するとともに、こうした取組が生徒たちの研究成果の向上にもつながっていると実感しています。

今年度は、昨年度の取組を改良しつつ取組のさらなる充実をめざすとともに、課題として残る「取組の普及・還元」「校外からの持続可能な支援体制の構築」を重視しながら取組を進めてきました。

9月と1月に校内で実施する「課題研究発表会」において、近隣の小・中学校や高等学校との連携拡大を図りました。9月の中間発表会では府立和泉高等学校の生徒が16本のポスター発表を、そして翌週には本校の生徒が和泉高校を訪問し発表と意見交換を行うなど、双方向での交流を行いました。

1月の最終発表会では小・中学生による発表を募り、希望した9組の児童生徒が発表を行いました。特に、義務教育学校の貝塚市立二色学園とは今年度から学校間の交流を開始し、今後さらなる拡大を進めていきます。このように、「課題研究発表会」が単なる成果発表の場に留まらず、探究の成果を地域や他校に伝え、次の学びへとつなげる場として機能し始めています。

「校外からの持続可能な支援体制の構築」に対しては、上記のとおり、「泉州サイエンスポートフォリオ」や「岸高デジタルサロン」の開発を進めてきました。今年度は、学校全体の探究活動を俯瞰できるポータルサイトとして「キシデジ（岸高デジタルサロン）」を本格的に運用しました。授業で使用する各種コンテンツやツールへの導線としても活用しています。「キシデジ」の運用により、各学年・各学域での探究活動の状況が生徒・教員双方に共有され、探究活動全体の流れや位置づけを把握しやすくなりました。この取組は、昨年度より構想してきた「岸高デジタルサロン」および「泉州サイエンスポートフォリオ」を、実運用段階へと移行させたものとして位置づけることができます。

来年度が第Ⅲ期最後の1年となりました。引き続き、協創型「温故知新」プログラムによる科学技術人材の育成と地域と取り組む探究ネットワークの構築の実現をめざし取り組んでまいります。

最後になりましたが、SSH運営指導委員の皆様、課題研究にご支援、ご協力いただいた大学・研究機関・企業の皆様、地域の皆様、その他多くの先生方のご尽力のおかげで、本校がSSH事業を円滑に進められていることに感謝申し上げます。今後とも、生徒たちがより一層持てる力を発揮し、成果を上げることができるよう、引き続き、よろしくお願いします。

令和8年3月

大阪府立岸和田高等学校
校長 植木 信博

目 次

①令和7年度スーパーサイエンスハイスクール研究開発実施報告（要約）

① 研究開発課題	1
② 研究開発の概要	1
③ 令和7年度実施規模	1
④ 研究開発の内容	1
○研究開発計画	1
○教育課程上の特例	2
○令和7年度の教育課程の内容のうち特徴的な事項	2
○具体的な研究事項・活動内容	3
⑤ 研究開発の成果	5
⑥ 研究開発の課題	8

②実施報告書（本文）

SSH 中間評価において指摘を受けた事項のこれまでの改善・対応状況	10
-----------------------------------	----

③関係資料

令和7年度 SSH 探究部体制図・SSH 研究開発組織図	12
令和7年度 探究学習指導体制図	13
「付けさせたい力」のルーブリック	14
変容分析【78期生3年間】	16
変容分析【79期生2年間】	18
変容分析【80期生1年間】	18
学域別所属人数の構成【全学年】	19
研究テーマ一覧【セレンディピティ・1年】	19
研究テーマ一覧【文理課題研究・2年】	20
研究テーマ一覧【キャリアスタートゼミ・3年】	21
運営指導委員会①	22
運営指導委員会②	24
教育課程表【令和5年度入学生】	26
教育課程表【令和6年度入学生】	27
教育課程表【令和7年度入学生】	28

大阪府立岸和田高等学校	基礎枠 実践型
指定第Ⅲ期目	指定期間 04～08

①令和7年度スーパーサイエンスハイスクール研究開発実施報告（要約）

① 研究開発課題									
協創型「温故知新」プログラムによる科学技術人材の育成と地域と取り組む探究ネットワークの構築									
② 研究開発の概要									
第Ⅱ期までに開発してきた学年全体での探究学習の指導体制をベースに、【岸和田 HELIX】と名付けた4つの取組（人・専門性・地域・デジタル）について研究開発を行うことで、科学技術人材の育成および地域と取り組む探究ネットワークの構築の実現が可能であると考えた。 科学技術人材の育成をめざし、生徒間の知の継承を促進する「縦割り型課題研究」、多角的な視点から課題解決力を育成する「文理融合型課題研究」「課題解決型プロジェクト学習」、3年間の系統立てたサイエンスリーダーを養成するプログラム“プロジェクト Nova”に取り組む。 探究成果の発信と地域・他校との接続拡大をめざし、課題研究発表会の拡大を図るとともに、探究学習情報交換会を実施する。また、地域と協働し探究活動を支える持続可能な基盤の構築をめざし、成果の普及と相互に高め協働へとつなげる、ICTを活用した「泉州サイエンスポートフォリオ」「岸高デジタルサロン」の開発を行う。									
③ 令和7年度実施規模									
学科	第1学年		第2学年		第3学年		計		実施規模
	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	生徒数	学級数	
文理 学科	320	8	316	8	314	8	950	24	全生徒を 対象に実施
④ 研究開発の内容									
○研究開発計画									
第1年次	1 「文理融合型課題研究」実施に向けた指導体制の整備 2 “プロジェクト Nova”メンバー決定、活動指導、サイエンスツアーなど実施 3 「SSN」構築に向けた、近隣の高等学校などとの交流研修実施 4 地域とつながる探究学習に向けた取組実施、指導体制のためのルール作成など 5 デジタルポートフォリオの実装化に向けた検討・実験 6 「岸高デジタルサロン」掲載情報の検討・実験								
第2年次	1 2年生での「縦割り型課題研究」の実施の計画 2 デジタルポートフォリオの評価方法検討 3 “プロジェクト Nova”の研究活動体制の開発 4 近隣の高等学校との協働研究の課題設定 5 「岸高デジタルサロン」のシステム開発								
第3年次	1 1～3年生での「縦割り型課題研究」の実施に向けた指導体制の検討 2 デジタルポートフォリオの評価方法の自動化の検討 3 “プロジェクト Nova”の成果発表と学会発表を検討 4 近隣の高等学校との協働研究の成果発表と今後の課題の検討 5 「岸高デジタルサロン」の校内での運用方法の検討								

第4年次	1 1～3年生での「縦割り型課題研究」の指導体制の3年間の分析 2 デジタルポートフォリオの普及の検討 3 “プロジェクト Nova” 指導体制の見直し 4 近隣の高等学校との協働研究の3年間の分析 5 「岸高デジタルサロン」の地域連携における運用方法の検討
第5年次	1 1～3年生での「縦割り型課題研究」の指導体制の再検討 2 泉州サイエンスポートフォリオの普及の検討 3 “プロジェクト Nova” の成果発表と学会発表の再検討 4 近隣の高等学校との協働研究の成果発表と今後の課題の再検討 5 「岸高デジタルサロン」の地域連携での運用

○教育課程上の特例

令和4年度以降入学生

学科・コース	開設する 教科・科目等		代替される 教科・科目等		対象
	教科・科目名	単位数	教科・科目名	単位数	
文理学科	セレンディピティ	1	総合的な探究の時間	1	第1学年全員
文理学科	国際情報	2	情報Ⅰ	2	
文理学科 理科	文理課題研究	2	理数探究	2	第2学年 理系全員
			総合的な探究の時間	2	
文理学科 文科	文理課題研究	2	総合的な探究の時間	2	第2学年 文系全員

- ・ グローバルリーダーに必要な資質・能力を育成するため、1年次の「情報Ⅰ（2単位）」を「国際情報（2単位）」に代替実施する。「情報Ⅰ」の目標・内容を包含した上で、情報技術を適切かつ効果的に活用する能力を基盤とし、問題解決型の実践的な内容を取り扱い、地域社会に貢献できる課題研究を進めていくために必要となる情報活用能力を身に付けさせる。
- ・ 変化の激しい社会に対応し、探究的な見方・考え方を働かせ、課題解決力と自己の生き方を考える力を育成するため、3年間を通して系統立てて先端的な探究活動を進めることを目的に、1年次の「総合的な探究の時間（1単位）」を「セレンディピティ（1単位）」に、2年次の文理学科理科では「総合的な探究の時間（2単位）」と「理数探究（2単位）」を、文理学科文科では「総合的な探究の時間（2単位）」を「文理課題研究（2単位）」に代替実施する。1年次の「セレンディピティ」では、探究の基礎知識や研究手法、研究倫理を学び、グループ研究を通じてテーマ設定力を養う。2年次の「文理課題研究」では、大学教員や地域の協力を得ながら探究活動を進め、中間発表で得た助言をもとに研究を深化させ、最終発表において課題解決力と研究の質を高める。

○令和7年度の教育課程の内容のうち特徴的な事項

[学科：文理学科]

学年	科目名	単位数	内容等
第1学年	セレンディピティ	1	1年の前半を「探究基礎」、後半を「探究導入」として実施。「探究基礎」では課題研究の意義、研究のための基礎知識や手法、研究倫理などの習得とテーマ設定の方法などを学ぶ。「探究導入」では各自の興味・関心をもとに5つの学域に分かれ、グループを決定し、再度研究テーマの検討を行う。

第2学年	文理 課題研究	2	各学域において、大学教員や卒業生、地域のNPOの方などからの協力や助言を得ながら探究活動を進める。また、9月上旬に中間発表会を行い、そこで得た指導・助言を基に追加の実験や検証などを行い、研究内容の質的向上を図り、1月下旬に行う最終発表会において、より深化した研究の成果発表を行う。
第3学年	キャリア スタート ゼミ	1	生徒一人ひとりが2年生までに行った課題研究の内容を振り返り、精査しながら、論文としてまとめていく。また、自らの探究活動の経験、研究内容や研究方法に関するアドバイスを下級生に伝えるとともに、活動を通して作成したスライドやポスターなどを掲載するデジタル探究ポートフォリオを作成する。

○具体的な研究事項・活動内容

「岸和田 HELIX」と名付ける取組①～取組④の4つの取組に対し、テーマ①～テーマ⑧の8つの研究開発テーマを立て、研究開発を進める。

1 「未来をきりひらく科学技術人材の育成」に向けた取組

● 取組① H【Human（人）】「明るい未来をきりひらく資質と能力の育成」

テーマ① 学年を超えてつながり学び合う「縦割り型課題研究」の実施に関する研究開発

学年を超えた生徒どうしのつながりによる研究の継承と深化をめざし、昨年度から開始した木曜6限に3学年同時展開する「縦割り型課題研究」を継続した。2年生の研究計画発表・中間発表・最終発表を軸に、同一学域内で発表・質疑・助言を行った。1年生は上級生の研究過程を参考にし、2年生は3年生による助言を踏まえて研究を深化させ、3年生は下級生への研究成果の継承や助言など、ティーチング・アシスタント（TA）としての役割を担った。学域制と連動させることで、各学年の接続と研究手法の共有が日常的に行われる体制を充実させた。

テーマ② 地域と協働する「課題解決型プロジェクト学習」の実施に関する研究開発

地域と協働して生徒の好奇心を刺激し自主性を引き出すことをめざし、昨年度までに構築してきた地域連携の枠組みや調査手法の蓄積を活かしながら、地域と協働する「課題解決型プロジェクト学習」を継続した。その結果、今年度も地域課題をテーマとした研究が複数見られた。2年次文理課題研究では、外部機関へのインタビューや現地調査を取り入れる事例が増加している。また、大阪府立和泉高等学校の生徒との意見交換を行い、地域における課題や解決案、研究手法を共有しながら、共同研究の可能性も視野に入れ、段階的に連携を強化している。

● 取組②：E【Expert（専門性）】：「未来の科学技術人材を育てる学びの“らせん”」

テーマ③ 全生徒・教員が関わる「文理融合型課題研究」の実施に関する研究開発

生徒の興味・関心に基づく研究テーマの設定と教科を横断した指導体制の定着をめざし、「数理・自然科学」「情報・芸術」「地域・健康」「社会・異文化」「人文・人間」の5学域による「文理融合型課題研究」を継続した。全教員がいずれかの学域に所属し、学域の生徒の探究活動に対して、複数教科の教員が専門性を活かし指導を行っている。生徒たちは学域内外で多様な視点から助言を受け、活発に分野横断的な議論を行いながら、研究の深化に努めている。なお、中間・最終発表会での教員による研究発表が増えるなど、教員の探究活動に対する意識の高まりや、教員間での探究の視点や研究成果の共有への意欲の高まりが見られる。

テーマ④ “プロジェクト Nova” の実施に関する研究開発

より高度な探究活動によるサイエンスリーダーの育成をめざし、特化型プログラム“プロジェクト Nova”を継続実施した。80期1年生ではNovaの生徒25名を2名の教員が担当し、全体より早い段階で研究計画を策定したうえで、1月末に実施した2年生の最終発表会で発表させ、研究に早く取り組めるようにした。79期2年生では「数理・自然科学」の学域に閉じず、「情報・芸術」「人文・人間」にも研究活動を展開させることで、学域横断的なテーマ設定を可能にした。外部発表への参加や専門的助言により自らの研究レベルを高めるとともに、発表会をはじめ全体との接点を持つことで、ロールモデルとしての役割を担っている。

2 「地域と共に取り組む持続可能な探究ネットワークの構築」に向けた取組

● 取組③：L【Local（地域）】：「地域と共に創り上げる協働の“らせん”」

テーマ⑤ 課題研究発表会の拡大に関する研究開発

探究成果の共有範囲の拡大、地域や他校との直接的な接続をめざし、課題研究発表会のさらなる充実に努めた。中間発表会には大阪府立和泉高等学校の生徒が参加し16本のポスター発表を、翌週には本校生徒が同校を訪問し発表・意見交換を行うなど、双方向の交流を実施した。最終発表会では、昨年度から継続して小・中学生による研究発表の機会を設け、参加校種を広げている。また、中間発表会を機に貝塚市立二色学園から多数の教員が視察に訪れ、その後同校生徒が最終発表会に参加するなど、発表会を起点とした学校間交流を拡大した。

テーマ⑥ 探究学習情報交換会の実施に関する研究開発

昨年度まで開催した探究学習情報交換会への参加校をはじめ、複数の学校とは持続可能な探究ネットワークとして構築した情報交換用 Classroom を活用し、オンラインでの資料共有や実践紹介を行うなど、連携を継続している。また新たに、探究活動を行う授業や発表会を公開するなどにより視察を受け入れている。昨年度2件であった視察が今年度は高等学校・義務教育学校・他県教育委員会等から計8件に拡大した。発表会に参加した学校関係者が視察に訪れ、同校が自校生徒に発表会への参加を促すなど、情報共有基盤と視察や発表会が相互に作用しながら、探究学習に関するネットワークが螺旋的に広がりつつある。

● 取組④：I【ICT（デジタル）】：「ICTを活用した教育活動の拡張と充実」

テーマ⑦ 泉州サイエンスポートフォリオの開発に関する研究開発

地域と協働しながら探究活動を支える持続可能な基盤の構築をめざし、泉州サイエンスポートフォリオの整備を進めた。これまでの開発成果を踏まえ、生徒に活動過程を記録させる「探究ログ」、研究成果を整理させる「探究ポートフォリオ」を運用している。また、発表スライドや研究論文を蓄積するためのデータベース化を進め、他校とも共有可能な検索 Web アプリ開発に着手するなど、探究活動の過程と成果を校内外で共有する仕組みづくりを進めた。

テーマ⑧ 岸高デジタルサロンの開発に関する研究開発

校外からの持続可能な支援体制の構築をめざし、「キシデジ（岸高デジタルサロン）」を本格運用した。全校体制による探究活動の推進に伴い、課題となっていた情報共有や指導体制の可視化、進捗管理、各種資料への導線整理を図り、探究活動全体を俯瞰できるハブとして整備している。校外関係者への取組の共有や支援依頼時の資料基盤として活用するとともに、新たに全校的探究に取り組む学校への情報共有にも資する仕組みとして発展させている。

1 「未来をきりひらく科学技術人材の育成」に向けた取組

● 取組①：H【Human（人）】：「明るい未来をきりひらく資質と能力の育成」

テーマ① 学年を超えてつながり学び合う「縦割り型課題研究」の実施に関する研究開発

木曜6限に3学年同時展開を行う「縦割り型課題研究」を昨年度から実施しており、今年度も全学年が同じ時間帯に活動する体制を継続することで、学年を超えた生徒どうしの縦のつながりを強化する取組を充実させた。研究計画発表・中間発表・最終発表を軸に、同一学域内で発表・質疑・助言を行う構造が定着し、学年を超えて研究手法等が共有される環境が形成されている（13頁「令和7年度 探究学習指導体制」参照）。1年生は上級生の研究を参考にしながら自らの興味・関心に基づく問いを具体化する、2年生は3年生からの助言を受けながら自らの研究を深化させる、3年生は研究成果を総括・発信するといった発達の循環が機能している。

本校では探究活動を通して「付けさせたい力」について、5領域25項目で構造化したルーブリックを用いて、5段階評価の平均を「到達度」、向上したと回答した割合を「向上実感」として分析している（14頁「「付けさせたい力」のルーブリック」参照）。到達度と向上実感を経年で確認することにより、技能や意識などの定着と自覚的成長の両面から、探究活動の成果を把握している。なお、本報告における「全体」はNova生徒を除いた学年全体のことであり、Novaとの比較については重複を含まない独立集団として整理している。

3年生（78期生）は、2年次から縦割り型課題研究を経験し、R5からR7にかけて到達度の明確な伸長が確認できる。「思考力・判断力」はNova3.4→3.9（+0.5）、全体3.2→3.8（+0.6）、「実践力」はNova3.4→3.9（+0.5）、全体3.3→3.8（+0.5）、「コミュニケーション力」はNova3.4→3.8（+0.4）、全体3.3→3.8（+0.5）と、Nova・全体ともに着実に向上している。25項目でも、「活用」（Nova+0.9／全体+0.6）、「分析」（+0.8／+0.6）、「展開」（+0.8／+0.6）、「検証」（+0.5／+0.6）など、研究プロセスの中核となる項目で双方に伸びが見られる（16頁「変容分析【78期3年間】」参照）。向上実感でも、「実践力」はNova27.7%→60.0%、全体37.0%→52.8%と上昇し、「思考力・判断力」もNova40.0%→55.7%、全体37.1%→51.6%と伸びている。到達度の上昇と自覚的成長の動向が概ね重なっており、3年間を通じた探究経験によって、研究の構想・実行・検証・総括という一連のプロセスが力として定着したことが読み取れる。

2年生（79期生）は、縦割り型課題研究の中核の学年として研究を深化させる段階にあり、到達度の伸長が確認できる。R6からR7にかけて、「コミュニケーション力」はNova3.4→3.9（+0.5）、全体は3.4で維持、「思考力・判断力」はNova3.4→3.8（+0.4）、全体3.3→3.5（+0.2）、「実践力」はNova3.3→3.7（+0.4）、全体3.3→3.6（+0.3）と上昇している（18頁「変容分析【79期2年間】」参照）。特に、研究を構造化し、発表を通して再構成する力の伸長が見られる点は、縦割り環境下での相互作用の成果と考えられる。向上実感では、「コミュニケーション力」がNova53.1%→70.0%と上昇している。力の要素「工夫」はNova23.1%→75.0%（+51.9pt）、全体38.1%→53.5%（+15.4pt）と双方で上昇しており、試行錯誤しながらも研究内容や表現方法を改善しようとする姿勢が育ってきている状況が確認できる。

1年生（80期生）は、上級生の研究を参考に問いを形成する段階にある。R7時点の到達度では、「実践力」Nova3.8／全体3.4、「思考力・判断力」3.7／3.4、「社会性」3.9／3.7と、研究活動の基盤となる資質が形成されつつある（18頁「変容分析【80期1年間】」参照）。向上実感では、「他者理解」Nova92.0%／全体54.3%、「傾聴」Nova88.0%／全体66.4%、「情報収集」Nova88.0%／全体56.1%といった結果が見られる。発表や助言を日常的に参考にできる環境の中で、他者の視点を取り入れながら学ぶ姿勢の形成が進んでいる。縦割り構造の中での相互作用が、探究活動の初期段階における態度の形成に一定の役割を果たしていると考えられる。

テーマ② 地域と協働する「課題解決型プロジェクト学習」の実施に関する研究開発

地域と連携した「課題解決型プロジェクト学習」を継続的に実施している。1年生の「セレンディピティ」では、岸和田シティプロモーション推進協議会（kcp）等の協力を得ながら、地域課題を科学的な視点から捉える機会を設けている。研究テーマ一覧を整理すると、1年生では地域環境や資源に着目したテーマが10本見られ、外来種の活用や地域農作物の成分・保存条件の検証などが挙げられる（19頁研究テーマ一覧【セレンディピティ・1年】参照）。2年生では、岸和田城の外来種問題、小型水力発電、食品廃棄物の再資源化など、地域課題を実験・データ分析に基づき検討するテーマが15本設定されている（20頁研究テーマ一覧【文理課題研究・2年】参照）。こうしたテーマに対する外部機関への聞き取りや現地調査など、現場の声を聞きデータを集めながら、現実社会とつながる実証的研究が定着しつつある。

● 取組②：E【Expert（専門性）】：「未来の科学技術人材を育てる学びの“らせん”」

テーマ③ 全生徒・教員が関わる「文理融合型課題研究」の実施に関する研究開発

生徒の興味・関心に基づく研究テーマにより分類し、全教員が教科の枠を超え指導にあたる「文理融合型課題研究」を継続実施している。学域再編から2年が経過し、教科の枠を超えた5学域での指導体制が定着した（13頁令和7年度 探究学習指導体制図参照）。また、昨年度からのSSH探究部を中核とする組織体制の整備により、計画・運営・成果共有の流れが明確となり、学域横断的に生徒を支える基盤が整っている（12頁令和7年度 SSH探究部体制図・SSH研究開発組織図参照）。文理融合型の枠組みにより、理数系テーマに社会的・倫理的視点加わる事例や、社会課題型研究に実験・データ分析の視点が入り入れられる事例が見られるなど、教科横断的で多様なテーマ構成が形成されている（19-20頁研究テーマ一覧参照）。運営指導委員会においても、様々な視点からのテーマ設定や生徒どうしの活発な質疑応答が評価され、本校の探究活動の質的な広がりが確認された（22-25頁運営指導委員会①②参照）。「文理融合型課題研究」が、生徒たちの主体的な探究活動に好影響を与えていると考える。

テーマ④ “プロジェクト Nova”の実施に関する研究開発

Novaの成果については、3年生（78期）の3年間の段階的な変化に最も明確に表れている。到達度（5段階評価）では「分析」3.3→3.5→4.1、「展開」3.3→3.4→4.1、「状況把握」3.4→3.9→4.3と、研究の深化に直結する項目が大きく伸長した。R5からR7にかけて「分析」+0.8、「展開」+0.8、「状況把握」+0.9と上昇し、最終年度はすべて全体を上回った（16頁変容分析【78期3年間】参照）。向上実感においても、「実践力」27.7%→65.7%→60.0%、「みらいと向き合う力」32.3%→50.0%→57.2%と推移し、R7では全体との差がそれぞれ+7.2pt、+14.8ptとなった。「計画」「総括」「デザイン」など、研究の統合段階に関わる力にも伸びが見られ、基礎形成から分析・展開・総括へと一連の力が統合されていることが確認できる。

2年生（79期）も「論理」+0.8、「工夫」+0.6、「質問」+0.6、「総括」+0.8と研究の構造化に関わる力が伸長し、向上実感では「工夫」+51.9pt、「応答」+36.2pt、「展開」+35.6ptと大きな変化が見られた（18頁変容分析【79期2年間】参照）。大阪サイエンスデイ第2部に出場した3テーマすべてが入賞し、うち1テーマが優秀賞を受賞するなど、外部発表においても大きな成果を挙げた。1年生（80期）についても、R7時点で「仮説」「情報収集」「計画」「協働」等で全体を上回り、向上実感では「他者理解」+37.7pt、「計画」+37.6pt、「情報収集」+31.9ptと、全体と比べ顕著な差が確認できた（18頁変容分析【80期1年間】参照）。

1年次の基礎形成（仮説設定・情報収集等）から2年次の構造化（論理・工夫・質問等）、そして3年次の統合（分析・展開・総括等）へとつながる育成過程において成果が見られた。

2 「地域と共に取り組む持続可能な探究ネットワークの構築」に向けた取組

● 取組③：L【Local（地域）】：「地域と共に創り上げる協働の“らせん”」

テーマ⑤ 課題研究発表会の拡大に関する研究開発

9月の中間発表会において大阪府立和泉高等学校の生徒が16本のポスター発表を行い、翌週には本校生徒が同校を訪問し発表と意見交換を行うなど、双方向の交流を実現した。単なる招待型の発表ではなく、相互訪問による対話的な接続へと発展した点は大きな成果である。

また、1月の最終発表会では、小・中学生9組が研究発表を行った。小学3年生による塩分抽出実験や琥珀糖の材料比較、小学4年生の生態調査、中学生によるアマモの環境研究やレッドリストを踏まえた昆虫調査など、多様かつ専門性の高い研究発表が行われた。発表を行った教室は満席で聴衆が入れない場面が見られる盛況で、高校生との質疑応答も活発に行われた。

参加した児童生徒からは来年度の継続参加を希望する声が寄せられるほどの好評で、小・中学校教員も複数視察に訪れるなど、発表会が効果的な異校種交流の場として機能している。

テーマ⑥ 探究学習情報交換会の実施に関する研究開発

地域の高等学校を集めて実施した探究学習情報交換会を起点に、昨年度から大阪府立和泉高等学校との探究活動にかかる連携を開始した。今年度は生徒間の交流を本格実施させるなど、着実に進展している。相互訪問による発表会などにおいて、生徒の発表や質疑の様子を共に見ながら、各学校における探究の到達点や指導の工夫を具体的に共有する機会が生まれた。

こうした探究活動実施にかかる連携はさらに広がり、今年度は義務教育学校である貝塚市立二色学園との交流を開始した。発表会への参加や視察、探究にかかる方法論の共有を経て、来年度には小・中学生と本校生徒による合同授業の実施を検討しており、さらに協働した探究活動や共同研究の実施に向けた具体的な協議が進んでいる。校種を超えた探究ネットワークが単発の交流に留まらず、継続的な連携モデルへと発展しつつある。

● 取組④：I【ICT（デジタル）】：「ICTを活用した教育活動の拡張と充実」

テーマ⑦ 泉州サイエンスポートフォリオの開発に関する研究開発

外部との連携を行う際に本校生徒の研究内容や活動状況を即時に提示できる体制を整えるとともに、後輩や新たに探究活動に取り組む生徒が参考資料として閲覧できる情報の蓄積を目的として基盤整備を進めた。その中核として、探究過程の記録と成果物の共有を一体化した「探究ログ」を運用し、全学年・全生徒が毎時間の探究活動を振り返る仕組みを構築した。

今年度は年間17,000件を超えるデータを蓄積し、学年・学域・活動段階ごとの傾向を把握することが可能となった。試行分析において、活動段階における自己評価の変化や教員との対話状況などが可視化され、指導改善に向けた論点を具体化することができた。また、成果物のデータベース化を進めたことで、研究成果の公開および外部共有を可能とする基盤が整った。

テーマ⑧ 岸高デジタルサロンの開発に関する研究開発

学校全体の探究活動を俯瞰できるポータルサイトとして「キシデジ」を本格運用した。各学年・学域の活動状況や発表会に関する情報、研究テーマ一覧などを体系化したことで、探究活動の全体像を可視化できるようになった。生徒向け約6万ビュー、教員向けキシデジ Pro 約2.4万ビューと活用されており、授業にかかる資料や研究情報などを共有する基盤として定着している。先述の「探究ログ」による探究活動の過程の記録などとともに公開・共有することで、有識者・専門家や地域と協働しながら生徒を育て支援するための持続可能な探究ネットワークとして機能するものと考えている。

1 「未来をきりひらく科学技術人材の育成」に向けた取組

● 取組①：H【Human（人）】：「明るい未来をきりひらく資質と能力の育成」

同じ学域の生徒たちが学年を超えてつながり、また地域と連携し探究活動を行うことで、生徒の主体性や協働性は着実に育成されている中、研究レベルのさらなる向上（テーマ①）および持続可能な外部連携（テーマ②）が課題として挙げられる。そのため、研究レベル向上に向けた新たな取組、外部連携を継続実施していくための制度化などを推進していく。

テーマ① 学年を超えてつながり学び合う「縦割り型課題研究」の実施に関する研究開発

3 学年同時展開の体制が定着し、学年を超えた研究プロセスの共有は日常化している一方、学域間などで研究レベルや指導の濃さに差が見られるため、研究全体の質向上に向けた基準の設定と共有が求められる。TA としての役割を担う 3 年生の関わりにも個人差が大きく、育成に向けた体系的な位置付けなどの整理が必要である。また、研究倫理・引用管理・統計的妥当性など、研究を行う上でのガイドラインを整備し、全学域で共有することも必要となる。

テーマ② 地域と協働する「課題解決型プロジェクト学習」の実施に関する研究開発

地域との連携は拡大し、多様な外部機関との接続は進んだが、単年度や単発的に終わる事例も見られる。研究成果を社会実装させたり、検証段階まで発展させたりするためには、持続的な協働が不可欠となる。外部機関との接続のほか、外部専門家による指導助言についても、個別対応に依存することなく、制度として接続できる仕組みの構築が求められる。

● 取組②：E【Expert（専門性）】：「未来の科学技術人材を育てる学びの“らせん”」

「文理融合型課題研究」は生徒たちの主体的な探究活動の推進に寄与し、“プロジェクト Nova” については既述のとおり、当該生徒たちの 3 年間を通じた大きな成長が確認できた。

一方で、研究レベルの底上げ（テーマ③）および人材育成に向けた特化型プログラムとしての位置づけと成果指標（テーマ④）において課題が残る。各研究テーマの専門性を踏まえた研究の質の保証、“プロジェクト Nova” 生徒の育成プログラム策定などを進めていく。

テーマ③ 全生徒・教員が関わる「文理融合型課題研究」の実施に関する研究開発

5 学域による指導体制は定着したが、分野横断に伴い、研究の質にはばらつきが見られる。特に、厳密な理論に基づいた研究の高度化、人文社会系研究における精緻なデータ分析など、研究レベルの底上げが課題である。そのため、教員側の専門性と指導力向上を体系的に支援する研修設計が必要となる。さらに、教科横断を形式的な配置に留めず、問いの立て方や研究方法の選択などにおいて、実質的な融合が起こる指導モデルの構築が次段階の課題となる。

テーマ④ “プロジェクト Nova” の実施に関する研究開発

“プロジェクト Nova” については、サイエンスリーダー育成に向けた特化型プログラムとしての位置づけを理論的に構造化し、さらに大きな成果を挙げなければならない。そのため、「どの時期に、どこまでの到達目標を設定し、どのような活動に取り組ませ、どのような力を育成するのか」などを明記した育成プログラムの策定が求められる。また、探究活動に取り組むロールモデルとしての役割を十分に果たし、全体に正の波及効果をもたらす取組を検討・実施していく。特化と普遍の両立を図る制度設計が、次段階に向けた重要な論点である。また、中間評価で指摘のあった Nova の成果に対する評価方法の精緻化にも課題が残る。

2 「地域と共に取り組む持続可能な探究ネットワークの構築」に向けた取組

● 取組③：L【Local（地域）】：「地域と共に創り上げる協働の“らせん”」

探究学習情報交換会の実施をベースに課題研究発表会を拡大させ、地域や他校との接続は着実に拡大している。一方で、交流の制度化（テーマ⑤）および到達目標の多様性を前提とした協働モデルの構造化（テーマ⑥）が課題である。そのため、発表会を起点に構造とノウハウを整理し、校種・校域を超え持続的に接続する地域探究ネットワークへと発展させる。

テーマ⑤ 課題研究発表会の拡大に関する研究開発

今年度は地域の高校との相互訪問型の交流が実現するとともに、異校種接続へと拡大した。一方で、探究活動における育成目標や到達点は各校で異なることから、単一の評価基準を共有することだけでは成果は得られない。発表会を交流の場に留めず、問いの立て方や研究の進め方、探究活動に対する評価方法など、各校が自校の目標や生徒の実態などに応じて運用できる実施方法や指導体制について、意見を共有できる場へと発展させることが求められる。

テーマ⑥ 探究学習情報交換会の実施に関する研究開発

視察や情報交換、相互交流は拡大しているが、各校の教育課程や到達目標が異なるため、すべて同じ形での実施は不可能で、参考にできる点は限られる。そのため、共通のゴールではなく、探究活動をうまく機能させるための体制設計、役割分担、評価方法などの“構造的知見”を整理・共有し、各校が状況に応じて活用できる汎用的モデルの確立が求められる。

● 取組④：I【ICT（デジタル）】：「ICTを活用した教育活動の拡張と充実」

持続可能な探究ネットワークとして、探究活動の記録・可視化・公開の基盤は形成できた。一方で、データの分析活用（テーマ⑦）および運用の高度化と外部展開（テーマ⑧）という次段階の課題が残っている。そのため、蓄積データのエビデンス化とプラットフォーム設計などを進め、探究基盤を校内外に拡張するデジタル HELIX モデルへと発展させる。

テーマ⑦ 泉州サイエンスポートフォリオの開発に関する研究開発

探究過程の記録と成果物の共有を一体化した「探究ログ」において、17,000 件超のデータを蓄積し、活動過程などの可視化は進んだが、そのデータを活用した分析や効果測定などは未実施である。ルーブリック評価との連動、母集団差を踏まえた分析設計、他校比較を通じたエビデンス化が課題である。記録を分析へとつなげる基盤づくりが求められる。

テーマ⑧ 岸高デジタルサロンの開発に関する研究開発

今年度から本格運用した「キシデジ」の利用は定着しているが、活用実態の質的分析やデータの自動連携などは途上段階である。校内外連携に耐え得る運用設計と権限管理の整理を進め、他校展開可能なモデルとして体系化する必要がある。情報基盤を単なる共有から「探究を設計するプラットフォーム」へと進化させていく。

■ HELIX モデルの体系化と次期展開

Human・Expert・Local・ICT の4軸が交差する X (matrix) 構造を基盤に、HELIX モデルによる全校的探究体制は確立した。研究水準の保証、育成モデルの構造化、地域連携の制度化、データ活用の高度化といった次段階の課題も明確になっている。第Ⅲ期4年間の蓄積を踏まえ、第Ⅲ期5年めとなる来年度は、各取組を螺旋的に統合・精緻化し、岸高 HELIX モデルとして体系化・提示するとともに、次期段階へ接続可能な持続的発展モデルへと昇華させる。

②実施報告書（本文）

SSH 中間評価において指摘を受けた事項のこれまでの改善・対応状況

本項目では、令和6年度に実施された SSH 中間評価の総括および主な講評を踏まえ、本校がその内容をどのように受け止め、どのような改善・対応を進めてきたかについて整理する。

中間評価では、「これまでの努力を継続することによって研究開発のねらいの達成がおおむね可能と判断されるものの、併せて取組改善の努力も求められる。」との総括が示された。

本校は、この評価を、研究開発の方向性および全校的な推進体制について一定の評価が示されたものと受け止めている。一方で、成果分析の妥当性、研究水準の保証、外部連携の制度化、取組の体系化など、質的な深化に向けた改善が求められている点を重要な課題として共有した。

こうした指摘を踏まえ、成果分析の精緻化、育成モデルの構造化、研究水準の質保証、外部連携の制度設計、成果の普及モデルの明確化を重点課題に位置付け、改善を段階的に進めてきた。

以下では、評価項目に対応する観点ごとに、具体的な改善・対応状況について示す。

1. 研究開発計画の進捗と管理体制、成果の分析

中間評価においては、「全校的に事業を推進する体制が整っており、常に改善を図りながら進めていることは評価できる」との講評を受けた。一方で、「プロジェクト Nova の取組については評価できるが、成果の分析において母数が大きく異なる『Nova』と他の生徒の数値を単純に比較することは適切か検証することが必要」との指摘がなされた。

推進体制については、昨年度から新たに SSH 事業を推進する校務分掌「SSH 探究部」を設置することによって、年度当初の探究オリエンテーション、学期ごとの担当者会議、9月・1月の発表会における全教員評価とその評価のフィードバック、学年末の振り返り調査などを通して、計画・実践・評価・改善の循環をより精緻に回す仕組みを整備してきた。さらに、発表評価結果や教員コメントを次年度設計に反映させることで、継続的な改善を図っている。

成果分析の妥当性については、指摘内容を踏まえ、ルーブリック評価に対する学年進行に伴う縦断的分析へと手法を転換した。従来は Nova と全体の平均値比較が中心であったが、今年度は各学年段階における到達度の推移に着目し、成長過程そのものを把握する分析を試行している。これにより、「どの段階で、どの観点が伸長しているか」という育成構造の可視化が可能となった。また、到達度変化の傾向については、観点別の成長パターン分析（いわゆる「4 象限」分析）も試行し、観点ごとの伸長特性の把握を進めている（17 頁変容分析【78 期生 3 年間】参照）。

さらに、泉州サイエンスポートフォリオの開発過程で得られた着想をもとに、探究活動の過程データを分析対象とする取組を開始した。「探究ログ」は、生徒が毎回の探究活動後に目的・内容・対話の有無・成果等を記録するデジタル振り返りシステムであり、活動過程を可視化する形成的評価の基盤である。今年度は全学年で本格実施し、17,000 件を超える活動記録を集約した。成果指標に加え、記述量・対話実施率・校外活動率等を組み合わせた多面的分析を試みた。

下表のとおり、学年進行に伴い自己評価は着実に上昇、それに連動し記述量も増加している。特に Nova 生徒は 3 年次に平均 340 字に達し、対話実施率も 88% まで高まった。また、校外・自宅活動率も増加しており、探究活動が授業内活動のみならず自律的活動へと発展している。

探究ログの試行的分析結果

指標カテゴリ	評価項目	1年 全体	1年 Nova	2年 全体	2年 Nova	3年 全体	3年 Nova
マインドセット	自己評価（5段階）	3.42	3.88	3.58	4.35	4.02	4.78
思考の解像度	平均記述量	65	120	92	210	115	340
行動の積極性	対話実施率（％）	48	65	52	82	55	88
継続性	平均投稿回数	7.8	11.2	8.2	14.1	4.2	6.8
活動の自律性	校外・自宅活動率（％）	18	28	22	42	35	58

これらの分析は現時点においては試行段階であるが、成果の単純比較から、成長過程および活動構造を捉える評価モデルへの転換を具体化できる取組である。今後はルーブリック評価との連動や母集団差を踏まえた統計的な検証を進めるとともに、縦断データのさらなる蓄積を進め、より精緻な成果分析へと発展させていく予定である。

2. 教育内容・指導体制

中間評価では、「縦割り型課題研究を木曜午後に全教員で実施していることは評価できる」「校長のリーダーシップの下で指導体制を構築できていることは評価できる」「デジタル機器を活用し、生徒の主体的取組を取り込んだカリキュラムを実施していることは評価できる」との講評を受けた。

木曜6限に3学年同時展開で実施する縦割り型課題研究を実施しながら、全教員が探究活動の指導にあたる体制を維持している。校長による方針の下、SSH 探究部を中心とした教科横断的な運営体制を整備し、学年・学域を超えた情報共有と指導改善を継続してきた。

また、生徒たちが自らの興味・関心に基づき問いを立て、外部と接続しながら探究活動を進め、成果を発信するといったカリキュラムを実施するにあたり、1人1台端末や探究ポータルサイト「キシデジ」「探究ログ」等のデジタル基盤を効果的に活用している。デジタル環境は単なる効率化のための手段ではなく、対話・記録・振り返りを支える学習基盤として機能している。

3. 外部連携・国際性・部活動等

中間評価では、「NPO 等と連携することで研究開発計画を進めていることは評価できる」「小学生を発表会に参加させる取組は評価でき、さらなる発展を期待する」「科学系クラブの人数が増加し活発化しており、今後の成果が期待される」との講評を受けた。

外部連携については、第Ⅲ期3年間の蓄積を基盤に、各学域において生徒たちが主体的に地域と接続する取組が広がっている。連携の持続性を高めるため、協力機関との連携ルールを明文化し、探究ポータル「キシデジ」で共有するとともに、授業時間中の外出許可手続きも整理・明確化した。これにより、計画から実行・継続へとつながる制度的基盤を整えている。

小・中学生を発表会に参加させる取組について、さらなる発展を期待するとの声を踏まえ、義務教育学校との連携を開始し、校種を超えた探究交流へと発展させている。

科学系クラブ員が集まる「サイエンスカフェ」を今年度から、専門家の知見に触れる機会と生徒自らが発信・対話する場を組み合わせる二部制（第一部（講演）と第二部（部活動による研究報告・協働交流））へ再構成し、問いを深化させる探究の場へと発展させた。こうした交流の広がりから、生物部の生徒が大阪府内の高校生と連携し、「日本生物学生連合」を立ち上げる動きが起こっている。校内の取組が生徒による自律的な研究ネットワーク形成へと広がりつつある。

4. 成果の普及

中間評価では、「岸和田高校を中心に近隣校にも取組が波及していることは評価できる」「学年をまたいだ縦の交流を重視していることは評価できる」との講評を受けた。

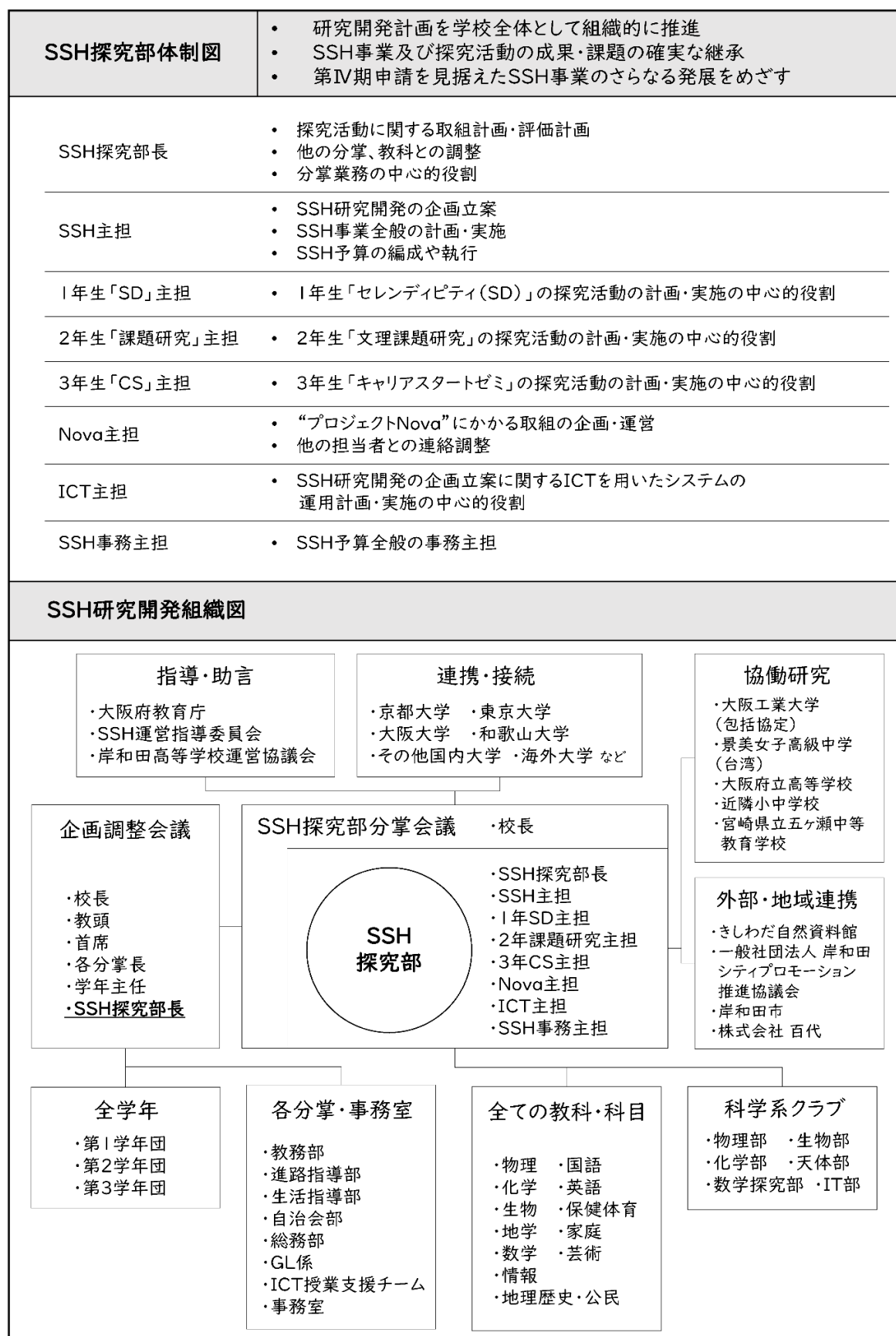
さらなる取組の波及をめざし、昨年度から本校における探究全体の設計や研究活動の具体的手法を共有してきた大阪府立和泉高等学校とは今年度からさらに連携を発展させ、生徒の相互訪問を実施し、実践の場で教員どうしが生徒の活動を見取りながら意見交換を行うなど、現場に根差した連携を重ねている。

また、小・中学校や他府県の高等学校、教育委員会からの視察や問い合わせもあり、その件数は昨年度の約3倍に増加している。その要因は、縦割り型課題研究、文理融合による学域横断設計、全教員が関与する指導体制などの運営構造に対する関心が高まっていることにある。本校の探究モデルを校種・地域を超えて発信・普及していきたい。

③関係資料

令和7年度 SSH 探究部体制図・SSH 研究開発組織図

SSH 探究部を中核に、校内組織と外部機関を接続する研究開発体制を構築している。



令和7年度 探究学習指導体制図

5学域による指導体制と教室配置を連動させ、学校全体で探究活動を実施している。

学域	数理・自然科学	情報・芸術	地域・健康	社会・異文化	人文・人間	合計
2,3年人数	183	89	164	97	97	630
2,3年テーマ数	63	25	43	29	36	196
2年人数	89	49	87	34	57	316
2年テーマ数	38	15	22	9	24	108
3年人数	94	40	77	63	40	314
3年テーマ数	25	10	21	20	12	88
1年人数	80	60	60	60	60	320
教員数	18	8	14	9	10	59
ST比計算(α)	9.0	5.0	8.8	3.4	5.8	32
ST比(α)	9.0	5.0	8.0	4.0	6.0	32
教員一人/生徒数(α)	9.9	9.8	10.9	8.5	9.5	
学域長(α)	理科	情報	家庭	数学	国語	5
図書室・LAN・調理室	実習教員					3
担当教員(α,2単位)	数学 Nova 数学 理科 Nova 理科 理科 Nova 理科 Nova 理科 理科 理科	国語 地公 数学 情報 情報 Nova	地公 数学 保体 保体 保体 保体 英語 英語 家庭	国語 地公 数学 英語 英語	国語 国語 Nova 地公 数学 英語	33
ST比計算(β)	7.4	4.3	5.8	5.2	4.3	27
ST比(β)	7.0	4.0	6.0	5.0	5.0	27
教員一人/生徒数(β)	24.9	25.0	22.8	24.6	20.0	
担当教員(β,1単位)	理科 SD 理科 CS 理科 SD 数学 SD 数学 CS 数学 CS 数学 SD 英語 CS	国語 CS 国語 CS 地公 SD 地公 SD	地公 CS 英語 SD 数学 CS 保体 SD 保体 CS 英語 CS	国語 CS 地公 SD 英語 SD 英語 CS 英語 CS	国語 CS 国語 SD 国語 SD 数学 CS	27

※ST比とは、生徒数に対する教員配置人数のめやすを示す指標である。

教室配置図

同窓館		本館北		本館西		本館南										東館	
4F		被服	調理	家総	書道	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	4選	音楽	4F	
		地域・健康				地域・健康											
		課題研究				CS					SD						
3F	LAN	物実	物講	地学	西選	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7	2-8	3選	東選	美術	
	情報・芸術	数理・自然科学				情報・芸術			地域・健康		人文・人間						
	課題研究	課題研究		1年Nova		CS		SD		課題研究		SD			課題研究		CS
2F	会議	生実	生講			3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	3-8	2選	多目的	2F	
	情報・芸術	数理・自然科学				数理・自然科学											
	課題研究	課題研究				SD					CS			CS			SD
1F	食堂	化実	北選	ピロティ	保健	事務	校長	来賓	教務	技師	図書				視聴覚		1F
		数理・自然科学															
		課題研究															

「付けさせたい力」のルーブリック

各項目を5段階の行動水準で具体化し、到達度評価と指導の共通基準として活用している。

'みらい'と向き合う力	
1【積極性】	分からないことを放置せず、積極的に自分で調べたり、質問したりすることができる。
Lv.1	たとえ分からないことがあっても、自分で調べたり質問したりすることはせず、放置したままである。
Lv.2	分からないことがあれば、とりあえず自分で調べるようにしているが、質問することはしていない。
Lv.3	分からないことがあれば、自分が納得いくまで調べているが、質問することはしていない。
Lv.4	分からないことがあれば、自分が納得いくまで調べたうえで、質問するようにしている。
Lv.5	分からないことがあれば、自分が納得いくまで調べたうえで、質問することができる。
2【将来設計】	将来のために、今何をすべきか計画し、行動することができる。
Lv.1	そもそも将来のことについて考えようとしたことはない。
Lv.2	将来のことについて考えてはいるが、今何をすべきかまでは計画できていない。
Lv.3	将来のために今何をすべきか計画しているが、行動することはできていない。
Lv.4	将来のために今何をすべきかを計画したうえで、それに基づき行動しようとしている。
Lv.5	将来のために今何をすべきかを計画したうえで、その計画どおりに行動することができる。
3【活用】	学習した技術や能力を活用し、課題解決に向けて工夫・改善できる。
Lv.1	そもそも課題解決に向けて工夫・改善しようとしてはしていない。
Lv.2	学習した技術や能力を活用しようとはしているが、課題解決に向けた工夫・改善には至らない。
Lv.3	学習した技術や能力を活用することはできているが、課題解決に向け、工夫・改善することはできていない。
Lv.4	学習した技術や能力を活用しながら、課題解決に向け、工夫・改善しようとしている。
Lv.5	学習した技術や能力を活用しながら、課題解決に向け、工夫・改善することができる。
4【講演会】	講演会などで有識者の話を聞き、自身の将来について考えることができる。
Lv.1	そもそも講演会などでの話をあまり熱心に聞くことができていない。
Lv.2	講演会などで話を聞くようにしているが、自身の将来について考えようとはしていない。
Lv.3	講演会などで話を聞くことはできているが、自身の将来について考えるまでには至らない。
Lv.4	講演会などで聞いた話を参考にしながら、自身の将来について考えようとしている。
Lv.5	講演会などで聞いた話を自分事として捉え、自身の将来について深く考えることができる。
5【自己理解】	自分の得意・不得意な事柄を理解し、それらの向上や改善に努めることができる。
Lv.1	そもそも自分の得意・不得意な事柄を理解しようとしていない。
Lv.2	自分の得意・不得意な事柄を理解しようとしているが、それらの向上や改善に努めるまでには至らない。
Lv.3	自分の得意・不得意な事柄を理解できているが、それらの向上や改善に努めることはできていない。
Lv.4	自分の得意・不得意な事柄を理解したうえで、それらの向上や改善に努めようとしている。
Lv.5	自分の得意・不得意な事柄を理解したうえで、それらの向上や改善に努めることができる。
社会性	
6【他者理解】	相手の立場や考えを理解し、発言や行動をすることができる。
Lv.1	相手の立場や考えを理解しようとはせずに発言や行動をしている。
Lv.2	相手の立場や考えを理解しようとはしているが、それを踏まえた発言や行動には至らない。
Lv.3	相手の立場や考えを理解することはできているが、それを踏まえた発言や行動はできていない。
Lv.4	相手の立場や考えを理解したうえで、それを踏まえて発言や行動しようとしている。
Lv.5	相手の立場や考えを理解したうえで、それを踏まえて発言や行動をすることができる。
7【状況把握】	社会のルールを理解し、TPOをわきまえて活動することができる。
Lv.1	社会のルールやTPOを考えるとなく活動している。
Lv.2	社会のルールを理解しようとはしているが、TPOを考えて活動するまでには至らない。
Lv.3	社会のルールを理解することはできているが、TPOを考えて活動することはできていない。
Lv.4	社会のルールを理解したうえで、TPOを考えて活動するようにしている。
Lv.5	社会のルールを理解したうえで、TPOを考えて活動することができる。
8【連携】	グループにおける自分の役割を把握し、協力することができる。
Lv.1	そもそもグループにおける自分の役割を把握しようとしていない。
Lv.2	グループにおける自分の役割を把握しようとしているが、協力しようとはしていない。
Lv.3	グループにおける自分の役割を把握しているが、協力することはできていない。
Lv.4	グループにおける自分の役割を把握したうえで、協力するようにしている。
Lv.5	グループにおける自分の役割を把握したうえで、協力することができる。
9【協働】	年齢や性別が異なる相手とも協力して行動することができる。
Lv.1	そもそも年齢や性別が異なる相手とは協力しようとしていない。
Lv.2	性別（年齢）が異なる相手とは協力しようとするが、年齢（性別）が異なると協力して活動することはできていない。
Lv.3	性別（年齢）が異なる相手とは協力することができるが、年齢（性別）が異なると協力して活動することはできていない。
Lv.4	年齢や性別が異なる相手とも協力して活動しようとしている。
Lv.5	年齢や性別が異なる相手とも協力し、活動することができる。
10【発信】	友達や地域の人に働きかけ、行動を起こすことができる。
Lv.1	そもそも課題研究等で友達や地域の人に働きかけようとはしていない。
Lv.2	課題研究等で友達には働きかけ行動を起こそうとしているが、地域の人に働きかけることはしていない。
Lv.3	課題研究等で友達には働きかけ行動を起こすことはできているが、地域の人に働きかけることはできていない。
Lv.4	課題研究等で友達や地域の人にも働きかけ、行動を起こそうとしている。
Lv.5	課題研究等で友達や地域の人に働きかけ、行動を起こすことができる。
コミュニケーション力	
11【傾聴】	相手の意見を丁寧に聞くことができる。
Lv.1	そもそも相手の意見を丁寧に聞くことと思ったことはない。
Lv.2	相手の意見を丁寧に聞くことはしているが、話しやすい雰囲気を作ろうとすることはない。
Lv.3	相手の意見を丁寧に聞くことはできるが、話しやすい雰囲気を作ろうとすることはない。
Lv.4	相手の意見を丁寧に聞くことができ、また、話しやすい雰囲気を作ろうとしている。
Lv.5	相手の意見を丁寧に聞くことができるとともに、話しやすい雰囲気を作ることができる。
12【論理】	自分の意見を論理立てて分かりやすく伝えることができる。
Lv.1	そもそも自分の意見を論理立てて考えることができていない。
Lv.2	自分の意見を論理立てようと努めているが、分かりやすく伝えることはできていない。
Lv.3	自分の意見を論理立てることはできているが、分かりやすく伝えることはできていない。
Lv.4	自分の意見を論理立てて分かりやすく伝えようとしている。
Lv.5	自分の意見を論理立てて分かりやすく伝えることができる。

13【工夫】	自分の考えを、図や例を用いることで、分かりやすく発表することができる。
Lv.1	そもそも自分の考えを分かりやすく伝えようと発表したことはない。
Lv.2	自分の考えを図・表や例を用いて表現しようとはしているが、分かりやすく発表することはできていない。
Lv.3	自分の考えを図・表や例を用いて表現することはできているが、分かりやすく発表することはできていない。
Lv.4	自分の考えを図・表や例を用いて表現することで、分かりやすく発表しようとしている。
Lv.5	自分の考えを図・表や例を用いて表現することで、分かりやすく発表することができている。
14【質問】	講演や発表の内容を理解し、質問することができる。
Lv.1	そもそも講演や発表の内容について理解しようとしていない。
Lv.2	講演や発表の内容を理解しようとしているが、質問しようとはしていない。
Lv.3	講演や発表の内容を理解することはできているが、質問することはできていない。
Lv.4	講演や発表の内容を理解したうえで、質問しようとしている。
Lv.5	講演や発表の内容を理解したうえで、質問することもできている。
15【応答】	自分の発表に対しての相手の質問の趣旨を理解し、答えることができる。
Lv.1	そもそも相手の質問に対して、その趣旨を十分に理解しようとはしていない。
Lv.2	自分の発表に対する相手の質問の趣旨を理解しようとはしているが、十分に理解できていない。
Lv.3	自分の発表に対する相手の質問の趣旨を理解できているが、的確に答えることはできていない。
Lv.4	自分の発表に対する相手の質問の趣旨を理解したうえで、的確に答えるようとしている。
Lv.5	自分の発表に対する相手の質問の趣旨を理解したうえで、的確に答えることができている。
思考力・判断力	
16【分析】	現状を分析し、取り組むべき課題を明らかにできる。
Lv.1	現状について分析することができず、取り組むべき課題を明らかにすることはできていない。
Lv.2	現状を分析しようとしているが、取り組むべき課題を明らかにするまでには至らない。
Lv.3	現状を分析することはできているが、取り組むべき課題を明らかにすることはできていない。
Lv.4	現状を分析し、取り組むべき課題を明らかにしようとしている。
Lv.5	現状を分析し、取り組むべき課題を明らかにすることができている。
17【仮説】	一つの課題について様々な側面から考えることができる。
Lv.1	そもそも一つの課題について様々な側面から考えようとはしていない。
Lv.2	一つの課題について様々な側面から考えようとはしているが、仮説を立てるまでには至らない。
Lv.3	一つの課題について様々な側面から考えることはできているが、仮説を立てることはできていない。
Lv.4	一つの課題について様々な側面から考えたうえで、仮説を立てようとしている。
Lv.5	一つの課題について様々な側面から考えたうえで、仮説を立てることができている。
18【計画】	課題解決に向けて、適切な方法を検討し計画することができる。
Lv.1	そもそも課題解決に向けて、適切な方法を検討しようとしていない。
Lv.2	課題解決に向けて、適切な方法を検討しようとしているが、計画するまでには至らない。
Lv.3	課題解決に向けて、適切な方法を検討することはできているが、計画することはできていない。
Lv.4	課題解決に向けて、適切な方法を検討し、計画しようとしている。
Lv.5	課題解決に向けて、適切な方法を検討し、計画することができている。
19【考察】	得られた情報や結果を分析し、論理的に考察することができる。
Lv.1	そもそも得られた情報や結果をどのように分析したらよいかわからない。
Lv.2	得られた情報や結果を分析しようとしているが、論理的に考察するまでには至らない。
Lv.3	得られた情報や結果を分析することはできているが、論理的に考察することはできていない。
Lv.4	得られた情報や結果を分析し、論理的に考察しようとしている。
Lv.5	得られた情報や結果を分析し、論理的に考察することができている。
20【展開】	考察を踏まえ、次の課題へ繋げることができる。
Lv.1	そもそも得られた結果を考察することができていない。
Lv.2	考察を踏まえて思考しようとしているが、次の課題へ繋げるまでには至らない。
Lv.3	考察を踏まえて思考することはできているが、次の課題へ繋げることはできていない。
Lv.4	考察を踏まえて思考することで、次の課題へ繋げようとしている。
Lv.5	考察を踏まえて思考することで、次の課題へ繋げることもできている。
実践力	
21【情報収集】	数字や資料から必要な情報を得ることができる。
Lv.1	そもそも数字や資料から必要な情報を得ようとはしていない。
Lv.2	資料が根拠のあるものか判断しようとしているが、その数字や内容から必要な情報を得るまでには至らない。
Lv.3	資料が根拠のあるものか判断できているが、その数字や内容から必要な情報を得ることはできていない。
Lv.4	資料が根拠のあるものかどうか判断し、その数字や内容から必要な情報を得ようとしている。
Lv.5	資料が根拠のあるものかどうか判断し、その数字や内容から必要な情報を得ることができている。
22【情報処理】	得た様々な情報を適切に処理することができる。
Lv.1	情報処理の方法を把握できていないため、得た情報をどう処理したらよいかわからない。
Lv.2	様々な情報処理の方法を把握しようとしているが、得た様々な情報を適切に処理するまでには至らない。
Lv.3	様々な情報処理の方法を把握しているが、得た様々な情報を適切に処理することはできていない。
Lv.4	様々な情報処理の方法把握しており、得た様々な情報を適切に処理しようとしている。
Lv.5	様々な情報処理の方法を把握しており、得た様々な情報を適切に処理することができている。
23【検証】	得た情報をもとに仮説を検証することができる。
Lv.1	そもそも得た情報をもとに仮説を検証する方法が分かってない。
Lv.2	得た情報をもとに仮説を検証する方法について検討しようとしているが、それを実行するまでには至らない。
Lv.3	得た情報をもとに仮説を検証する方法について検討しているが、それを実行することはできていない。
Lv.4	得た情報をもとに仮説を検証する方法について検討し、それを実行しようとしている。
Lv.5	得た情報をもとに仮説を検証する方法について検討し、それを実行することができている。
24【デザイン】	他者に分かりやすい図や表を作成することができる。
Lv.1	そもそも図や表を作成するにあたり、他者に分かりやすいということは考えていない。
Lv.2	色や大きさなどに配慮しようとしているが、他者に分かりやすい図や表を作成することはできていない。
Lv.3	色や大きさなどに配慮しているが、他者に分かりやすい図や表を作成することはできていない。
Lv.4	色や大きさなどに配慮しながら、他者に分かりやすい図や表を作成しようとしている。
Lv.5	色や大きさなどに配慮しながら、他者に分かりやすい図や表を作成することができている。
25【総括】	取組を振り返り、まとめることができる。
Lv.1	そもそも取組を振り返り、まとめようとしていない。
Lv.2	取組を振り返り、まとめるようとしているが、新たな課題へ繋げようとはしていない。
Lv.3	取組を振り返り、まとめることはできているが、新たな課題へ繋げるまでには至らない。
Lv.4	取組を振り返り、まとめることで、新たな課題へ繋げようとしている。
Lv.5	取組を振り返り、まとめることで、新たな課題へ繋げることができている。

変容分析【78期生3年間】

1. 探究到達度の推移（R5→R7：Nova・全体比較）

78期生の到達度（5段階評価）は、R5からR7にかけてNova・全体ともに数値が上昇しており、5項目すべてにおいてR7はR5を上回っている。

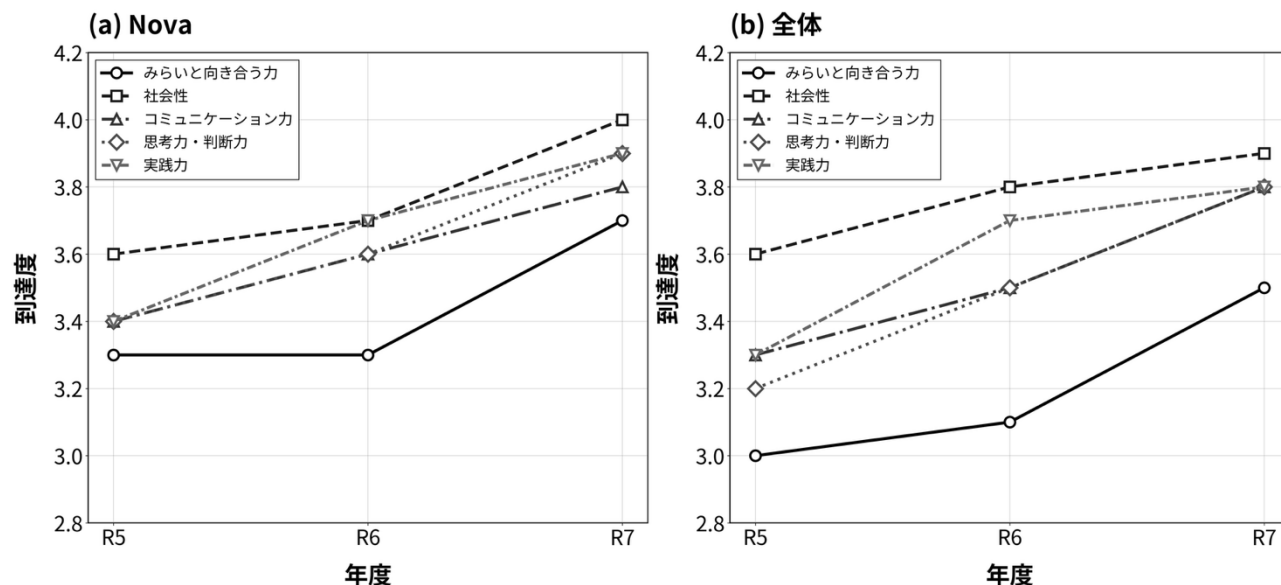
3年生（78期）「付けさせたい力」の到達度[5段階評価]とその変化（Novaと全体の比較）

No.	付けさせたい力	Nova(R5)	Nova(R6)	Nova(R7)	全体(R5)	全体(R6)	全体(R7)	Nova増減 (R5→R6)	全体増減 (R5→R6)	Nova増減 (R5→R7)	全体増減 (R5→R7)	R7差 (Nova-全体)
1	みらいと向き合う力	3.3	3.3	3.7	3.0	3.1	3.5	0.0	+0.1	+0.4	+0.5	+0.2
2	社会性	3.6	3.7	4.0	3.6	3.8	3.9	+0.1	+0.2	+0.4	+0.3	+0.1
3	コミュニケーション力	3.4	3.6	3.8	3.3	3.5	3.8	+0.2	+0.2	+0.4	+0.5	0.0
4	思考力・判断力	3.4	3.6	3.9	3.2	3.5	3.8	+0.2	+0.3	+0.5	+0.6	+0.1
5	実践力	3.4	3.7	3.9	3.3	3.7	3.8	+0.3	+0.4	+0.5	+0.5	+0.1

No.	力の要素	Nova(R5)	Nova(R6)	Nova(R7)	全体(R5)	全体(R6)	全体(R7)	Nova増減 (R5→R6)	全体増減 (R5→R6)	Nova増減 (R5→R7)	全体増減 (R5→R7)	R7差 (Nova-全体)
1	積極性	3.3	3.4	3.5	2.9	3.1	3.3	+0.1	+0.2	+0.2	+0.4	+0.2
2	将来設計	3.0	2.9	3.7	2.7	3.0	3.4	-0.1	+0.3	+0.7	+0.7	+0.3
3	活用	3.0	3.4	3.9	2.9	3.1	3.5	+0.4	+0.2	+0.9	+0.6	+0.4
4	講演会	3.6	3.2	3.6	3.2	3.0	3.7	-0.4	-0.2	0.0	+0.5	-0.1
5	自己理解	3.4	3.5	4.0	3.3	3.5	3.8	+0.1	+0.2	+0.6	+0.5	+0.2
6	他者理解	3.4	3.8	4.1	3.8	3.9	4.0	+0.4	+0.1	+0.7	+0.2	+0.1
7	状況把握	3.4	3.9	4.3	3.8	4.0	4.1	+0.5	+0.2	+0.9	+0.3	+0.2
8	連携	3.9	4.1	4.2	3.8	4.0	4.1	+0.2	+0.2	+0.3	+0.3	+0.1
9	協働	3.8	4.0	4.1	3.9	4.0	4.1	+0.2	+0.1	+0.3	+0.2	0.0
10	発信	3.3	2.4	3.4	3.8	2.9	3.2	-0.9	-0.9	+0.1	-0.6	+0.2
11	傾聴	3.7	3.9	3.9	3.8	3.9	4.1	+0.2	+0.1	+0.2	+0.3	-0.2
12	論理	3.3	3.6	3.9	3.2	3.3	3.7	+0.3	+0.1	+0.6	+0.5	+0.2
13	工夫	3.5	3.4	3.8	3.4	3.5	3.8	-0.1	+0.1	+0.3	+0.4	0.0
14	質問	3.1	3.2	3.6	2.9	3.0	3.4	+0.1	+0.1	+0.5	+0.5	+0.2
15	応答	3.5	3.8	4.0	3.4	3.6	3.8	+0.3	+0.2	+0.5	+0.4	+0.2
16	分析	3.3	3.5	4.1	3.2	3.5	3.8	+0.2	+0.3	+0.8	+0.6	+0.3
17	仮説	3.5	3.8	3.6	3.2	3.4	3.8	+0.3	+0.2	+0.1	+0.6	-0.2
18	計画	3.4	3.4	3.9	3.3	3.6	3.8	+0.0	+0.3	+0.5	+0.5	+0.1
19	考察	3.7	3.7	3.8	3.2	3.5	3.8	+0.0	+0.3	+0.1	+0.6	0.0
20	展開	3.3	3.4	4.1	3.2	3.5	3.8	+0.1	+0.3	+0.8	+0.6	+0.3
21	情報収集	3.6	4.0	3.9	3.4	3.9	3.9	+0.4	+0.5	+0.3	+0.5	0.0
22	情報処理	3.3	3.9	3.8	3.3	3.6	3.8	+0.6	+0.3	+0.5	+0.5	0.0
23	検証	3.4	3.8	3.9	3.1	3.5	3.7	+0.4	+0.4	+0.5	+0.6	+0.2
24	デザイン	3.3	3.6	4.0	3.5	3.9	4.1	+0.3	+0.4	+0.7	+0.6	-0.1
25	総括	3.4	3.4	3.9	3.2	3.6	3.7	+0.0	+0.4	+0.5	+0.5	+0.2

※回答者数：Nova（R5-R7=14名） | 全体（R5=269、R6=286、R7=290）

2. 探究到達度の経年推移 | 折れ線グラフ（R5→R7：5項目）



3. 向上実感割合の推移 (R5→R7: Nova・全体比較)

向上実感（割合％）は、R6 で増加している項目が多く、R7 では項目により増減が分かれている。R5 と R7 を比較すると、増加している項目が複数ある。

3年生（78期）「向上したと実感する力」の割合[%]とその変化（Novaと全体の比較）

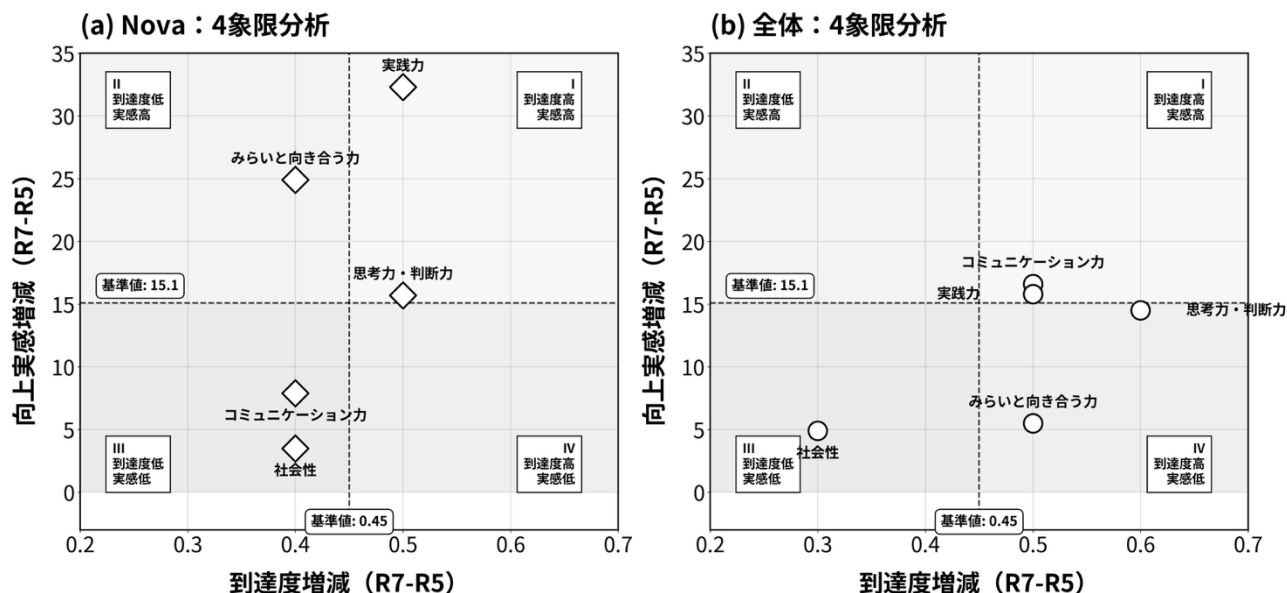
No. 付けさせたい力	Nova(R5)	Nova(R6)	Nova(R7)	全体(R5)	全体(R6)	全体(R7)	Nova増減 (R5→R6)	全体増減 (R5→R6)	Nova増減 (R5→R7)	全体増減 (R5→R7)	R7差 (Nova-全体)
1 みらいと向き合う力	32.3	50.0	57.2	36.9	38.1	42.4	+17.7	+1.2	+24.9	+5.5	+14.8
2 社会性	50.8	68.6	54.3	45.2	45.0	50.1	+17.8	-0.2	+3.5	+4.9	+4.2
3 コミュニケーション力	49.2	71.4	57.1	37.5	47.0	54.1	+22.2	+9.5	+7.9	+16.6	+3.0
4 思考力・判断力	40.0	68.6	55.7	37.1	49.6	51.6	+28.6	+12.5	+15.7	+14.5	+4.1
5 実践力	27.7	65.7	60.0	37.0	46.6	52.8	+38.0	+9.6	+32.3	+15.8	+7.2

No. 力の要素	Nova(R5)	Nova(R6)	Nova(R7)	全体(R5)	全体(R6)	全体(R7)	Nova増減 (R5→R6)	全体増減 (R5→R6)	Nova増減 (R5→R7)	全体増減 (R5→R7)	R7差 (Nova-全体)
1 積極性	53.8	64.3	78.6	40.5	50.7	47.2	+10.5	+10.2	+6.7	+6.7	+31.4
2 将来設計	7.7	42.9	42.9	34.2	30.8	37.6	+35.2	-3.4	+3.4	+3.4	+5.3
3 活用	53.8	92.9	64.3	44.6	52.4	50.7	+39.1	+7.8	+6.1	+6.1	+13.6
4 講演会	7.7	7.1	35.7	31.6	26.6	39.0	-0.6	-5.0	+7.4	+7.4	-3.3
5 自己理解	38.5	42.9	64.3	33.5	30.1	37.6	+4.4	-3.4	+4.1	+4.1	+26.7
6 他者理解	69.2	85.7	50.0	59.1	47.6	57.9	+16.5	-11.5	-1.2	-1.2	-7.9
7 状況把握	23.1	57.1	71.4	39.4	37.4	46.6	+34.0	-2.0	+7.2	+7.2	+24.8
8 連携	69.2	92.9	71.4	64.7	71.7	67.9	+23.7	+7.0	+3.2	+3.2	+3.5
9 協働	61.5	64.3	50.0	42.4	41.6	47.9	+2.8	-0.8	+5.5	+5.5	+2.1
10 発信	30.8	42.9	28.6	20.4	26.9	30.3	+12.1	+6.5	+9.9	+9.9	-1.7
11 傾聴	84.6	100.0	71.4	69.1	69.2	64.5	+15.4	+0.1	-4.6	-4.6	+6.9
12 論理	53.8	71.4	64.3	37.5	46.2	55.5	+17.6	+8.7	+18.0	+18.0	+8.8
13 工夫	46.2	78.6	50.0	36.8	55.6	63.1	+32.4	+18.8	+26.3	+26.3	-13.1
14 質問	38.5	42.9	50.0	21.6	26.9	41.0	+4.4	+5.3	+19.4	+19.4	+9.0
15 応答	23.1	64.3	50.0	22.7	37.1	46.2	+41.2	+14.4	+23.5	+23.5	+3.8
16 分析	69.2	92.9	50.0	46.8	55.9	54.1	+23.7	+9.1	+7.3	+7.3	-4.1
17 仮説	23.1	64.3	50.0	45.4	52.8	51.7	+41.2	+7.4	+6.3	+6.3	-1.7
18 計画	30.8	78.6	64.3	46.1	53.1	56.9	+47.8	+7.0	+10.8	+10.8	+7.4
19 考察	46.2	50.0	71.4	30.9	53.8	57.9	+3.8	+22.9	+27.0	+27.0	+13.5
20 展開	30.8	57.1	42.9	16.4	32.2	37.6	+26.3	+15.8	+21.2	+21.2	+5.3
21 情報収集	53.8	78.6	50.0	49.8	50.7	54.1	+24.8	+0.9	+4.3	+4.3	-4.1
22 情報処理	46.2	71.4	78.6	44.6	51.7	53.4	+25.2	+7.1	+8.8	+8.8	+25.2
23 検証	7.7	50.0	35.7	30.9	44.8	44.5	+42.3	+13.9	+13.6	+13.6	-8.8
24 デザイン	23.1	64.3	78.6	32.7	52.4	66.6	+41.2	+19.7	+33.9	+33.9	+12.0
25 総括	7.7	64.3	57.1	26.8	33.2	45.2	+56.6	+6.4	+18.4	+18.4	+11.9

※回答者数：Nova（R5-R7＝14名） | 全体（R5＝269、R6＝286、R7＝290）

4. 到達度×向上実感の4象限分析 (R7)

到達度増減（R7-R5）と向上実感増減（R7-R5）を組み合わせ整理した。両指標の関係を可視化し、項目ごとの分布状況を示している。



変容分析【79期生2年間】

探究到達度・向上実感の推移（R6→R7：Nova・全体比較）

R6 から R7 にかけての到達度（5段階評価）および向上実感（割合％）の変化を併せて整理した。両指標とも項目ごとに増減が見られる。

「付けさせたい力」の到達度[5段階評価]とその変化							「向上したと実感する力」の割合[%]とその変化							
No.	付けさせたい力	Nova(R6)	Nova(R7)	全体(R6)	全体(R7)	Nova増減 (R6→R7)	全体増減 (R6→R7)	No.	Nova(R6)	Nova(R7)	全体(R6)	全体(R7)	Nova増減 (R6→R7)	全体増減 (R6→R7)
1	みらいと向き合う力	3.2	3.3	3.0	3.0	+0.1	0.0	1	55.4	55.0	45.4	34.4	-0.4	-11.0
2	社会性	3.7	3.6	3.6	3.6	-0.1	0.0	2	50.8	46.7	45.9	39.4	-4.1	-6.5
3	コミュニケーション力	3.4	3.9	3.4	3.4	+0.5	0.0	3	53.1	70.0	46.9	41.3	+16.9	-5.6
4	思考力・判断力	3.4	3.8	3.3	3.5	+0.4	+0.2	4	54.6	61.7	47.6	41.9	+7.1	-5.7
5	実践力	3.3	3.7	3.3	3.6	+0.4	+0.3	5	54.6	60.9	47.1	41.3	+6.3	-5.8
No.	力の要素	Nova(R6)	Nova(R7)	全体(R6)	全体(R7)	Nova増減 (R6→R7)	全体増減 (R6→R7)	No.	Nova(R6)	Nova(R7)	全体(R6)	全体(R7)	Nova増減 (R6→R7)	全体増減 (R6→R7)
1	積極性	3.2	3.5	3.1	3.0	+0.3	-0.1	1	61.5	75.0	51.6	45.8	+13.5	-5.8
2	将来設計	3.1	3.4	2.6	3.0	+0.3	+0.4	2	46.2	41.7	42.5	32.9	-4.5	-9.6
3	活用	3.3	3.5	3.0	3.1	+0.2	+0.1	3	53.8	54.2	54.6	41.3	+0.4	-13.3
4	講演会	2.9	2.2	3.0	2.6	-0.7	-0.4	4	76.9	45.8	43.6	22.4	-31.1	-21.2
5	自己理解	3.4	3.8	3.4	3.4	+0.4	0.0	5	38.5	58.3	34.8	29.7	+19.8	-5.1
6	他者理解	3.9	3.9	3.8	3.7	0.0	-0.1	6	46.2	62.5	48.4	42.7	+16.3	-5.7
7	状況把握	3.9	4.1	3.8	3.8	+0.2	0.0	7	50.0	41.7	37.4	34.6	-8.3	-2.8
8	連携	3.9	4.0	3.9	3.8	+0.1	-0.1	8	84.6	37.5	73.6	61.9	-47.1	-11.7
9	協働	4.0	3.8	3.8	3.7	-0.2	-0.1	9	50.0	66.7	42.5	34.6	+16.7	-7.9
10	発信	2.8	2.4	2.7	3.0	-0.4	+0.3	10	23.1	25.0	27.8	23.4	+1.9	-4.4
11	傾聴	3.8	4.0	3.8	3.7	+0.2	-0.1	11	96.2	66.7	92.3	60.1	-29.5	-32.2
12	論理	3.0	3.8	3.3	3.4	+0.8	+0.1	12	53.8	70.8	42.9	36.4	+17.0	-6.5
13	工夫	3.3	3.9	3.3	3.5	+0.6	+0.2	13	23.1	75.0	38.1	53.5	+51.9	+15.4
14	質問	3.3	3.9	3.1	3.1	+0.6	0.0	14	57.7	66.7	29.7	23.4	+9.0	-6.3
15	応答	3.5	3.9	3.5	3.4	+0.4	-0.1	15	34.6	70.8	31.5	33.2	+36.2	+1.7
16	分析	3.6	3.8	3.4	3.5	+0.2	+0.1	16	73.1	62.5	57.9	50.0	-10.6	-7.9
17	仮説	3.4	3.8	3.3	3.4	+0.4	+0.1	17	69.2	66.7	58.6	43.4	-2.5	-15.2
18	計画	3.5	3.9	3.3	3.5	+0.4	+0.2	18	50.0	54.2	51.3	40.9	+4.2	-10.4
19	考察	3.1	3.7	3.2	3.5	+0.6	+0.3	19	53.8	62.5	44.0	48.3	+8.7	+4.3
20	展開	3.2	3.7	3.2	3.5	+0.5	+0.3	20	26.9	62.5	26.4	26.9	+35.6	+0.5
21	情報収集	3.4	3.8	3.5	3.6	+0.4	+0.1	21	61.5	54.2	51.3	48.6	-7.3	-2.7
22	情報処理	3.2	3.5	3.2	3.5	+0.3	+0.3	22	69.2	54.2	52.7	41.3	-15.0	-11.4
23	検証	3.4	3.8	3.1	3.5	+0.4	+0.4	23	57.7	62.5	45.4	31.8	+4.8	-13.6
24	デザイン	3.5	3.7	3.5	3.8	+0.2	+0.3	24	53.8	79.2	53.1	52.8	+25.4	-0.3
25	総括	3.0	3.8	3.3	3.5	+0.8	+0.2	25	30.8	54.2	33.0	32.2	+23.4	-0.8

※回答者数：Nova（R6=25、R7=24） | 全体（R6=273、R7=286）

変容分析【80期生1年間】

探究到達度・向上実感の整理（R7：Nova・全体比較）

R7 時点の到達度（5段階評価）および向上実感（割合％）を併せて整理した。力の要素については、全体との差が見られる項目および重点育成項目を中心に抜粋している。

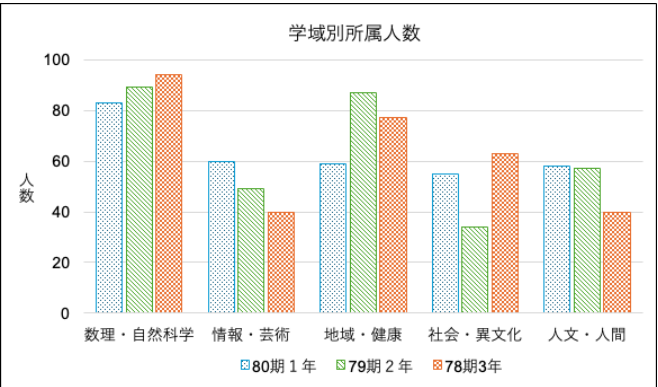
「付けさせたい力」の到達度〔5段階評価〕とその変化				「向上したと実感する力」の割合(%)とその変化				
No.	付けさせたい力	Nova(R7)	全体(R7)	R7差 (Nova-全体)	No.	Nova(R7)	全体(R7)	R7差 (Nova-全体)
1	みらいと向き合う力	3.1	3.1	0.0	1	52.0	38.7	+13.3
2	社会性	3.9	3.7	+0.2	2	65.6	44.5	+21.1
3	コミュニケーション力	3.7	3.5	+0.2	3	55.2	37.5	+17.7
4	思考力・判断力	3.7	3.4	+0.3	4	60.8	39.5	+21.3
5	実践力	3.8	3.4	+0.4	5	60.0	39.2	+20.8
No.	力の要素	Nova(R7)	全体(R7)	R7差 (Nova-全体)	No.	Nova(R7)	全体(R7)	R7差 (Nova-全体)
1	積極性	3.4	3.1	+0.3	1	68.0	47.1	+20.9
6	他者理解	4.0	3.9	+0.1	6	92.0	54.3	+37.7
9	協働	4.3	3.9	+0.4	9	72.0	41.5	+30.5
11	傾聴	4.1	3.9	+0.2	11	88.0	66.4	+21.6
12	論理	3.7	3.4	+0.3	12	68.0	41.9	+26.1
13	工夫	3.8	3.4	+0.4	13	56.0	29.8	+26.2
17	仮説	3.8	3.3	+0.5	17	72.0	46.0	+26.0
18	計画	3.7	3.4	+0.3	18	84.0	46.4	+37.6
21	情報収集	4.0	3.6	+0.4	21	88.0	56.1	+31.9
22	情報処理	3.7	3.4	+0.3	22	84.0	46.7	+37.3

※回答者数：Nova（R7=25） | 全体（R7=289）

学域別所属人数の構成【全学年】

全学年における学域別所属人数の構成を示す。あわせて、特化型プログラムである「プロジェクトNova」の在籍情報を掲載する。

学域別所属人数				
No.	学域	80期 1年	79期 2年	78期 3年
1	数理・自然科学	83	89	94
2	情報・芸術	60	49	40
3	地域・健康	59	87	77
4	社会・異文化	55	34	63
5	人文・人間	58	57	40
プロジェクトNova		25	24	14



研究テーマ一覧【セレンディピティ・1年】

1年次「セレンディピティ（SD）」で設定された研究テーマの一覧である。

No.	学域	Nova	テーマ
1	数理・自然科学	Nova	ブルーギルの行動生態と駆除への可能性
2	数理・自然科学	Nova	ユーカリが土壌に及ぼす影響～アレロパシー効果の利用～
3	数理・自然科学	Nova	雨のオノマトペを数値化する
4	数理・自然科学	Nova	結び目理論
5	数理・自然科学	Nova	ブランド"納豆"? ～岸高最強納豆製造秘話～
6	数理・自然科学	Nova	ミニトマトに潜むビタミンCの保存方法を探る！
7	数理・自然科学	Nova	酸性雨の中和による農作物被害減少への可能性
8	数理・自然科学	Nova	微生物を使って発電しよう
9	数理・自然科学	Nova	レイリー・テイラー不安定性から考えるミルククラウンの形
10	情報・芸術	Nova	3D Archive～造形物をより美しくするには～
11	数理・自然科学		確率論の応用とランダムウォーク
12	数理・自然科学		音楽の種類と歩く速度の関係
13	数理・自然科学		豆苗にあげる液体のpHを変えたときの育ち方の変化について
14	数理・自然科学		人狼ゲームの配役について
15	数理・自然科学		ダイラタンシーを調べよう！
16	数理・自然科学		～草を飲む時代～ 未利用植物の美味しさを科学する
17	数理・自然科学		人体に安全かつ苗の状態が大きく育ち収穫するときに虫がつかない野菜を作る
18	数理・自然科学		カイロ
19	数理・自然科学		果物で洗剤をつくらう
20	数理・自然科学		物を投げるときの筋肉の動きとその筋肉の鍛え方
21	数理・自然科学		快眠をするために役立つ食べ物や飲み物は何か。
22	数理・自然科学		コンポジットの研究
23	数理・自然科学		魚の体内のプラスチックを分解するには
24	数理・自然科学		音で中規模な火を消す
25	数理・自然科学		酸味を和らげよう！！！！
26	数理・自然科学		バドミントンにおけるラケットの挙動による力学的な違いについてバドミントンにおけるラケットの挙動による力学的な違いについて
27	数理・自然科学		防音
28	数理・自然科学		太陽光パネルは本当に環境にいいのか
29	情報・芸術		岸高学食のロゴを作ろう！
30	情報・芸術		画像生成AIを見ることで向上する「絵を描くこと」の満足感
31	情報・芸術		黒板に合うチョークの色を調べる
32	情報・芸術		骨格、顔タイプに合う服装や髪型
33	情報・芸術		プログラミングにより食堂を効率化するにはどうすればいいか
34	情報・芸術		色に対する印象と食べ物のイメージカラーの関係
35	情報・芸術		ゲームのパッケージによる印象操作
36	情報・芸術		ドット絵の認識の境界について
37	情報・芸術		ウォーターマーカーvsAI
38	情報・芸術		リラックスできる音楽とは ～音楽によって思い浮かぶ情景と色～
39	情報・芸術		BPMやBGMの高さの変化によって、ミスが増えるのか
40	情報・芸術		音楽のテンポと消費者行動の関連性
41	情報・芸術		スポーツと応援ソング
42	情報・芸術		カラオケのAI採点のAIボーナスが高得点になるにはどうすればいいか

No.	学域	テーマ
43	地域・健康	ダンクをしよう！
44	地域・健康	不発弾撲滅大作戦
45	地域・健康	AIカメラを使用して勝利へのつながりを見つけよう
46	地域・健康	古代の栄養ドリンクを予想して新しくより良いものを作る
47	地域・健康	自重トレvsウェイトトレーニング（大胸筋編）
48	地域・健康	魚の代替食品を作ろう
49	地域・健康	1週間の睡眠習慣が百ます計算の速度に及ぼす影響
50	地域・健康	古墳で堺市の観光客を増やそう
51	地域・健康	キャッチコピーや写真が与える影響
52	地域・健康	パフォーマンスを上げるにはどうするべきか
53	地域・健康	美味しそうに見える色
54	地域・健康	ベストな学校標識を作ろう！」
55	地域・健康	ひやひやキンキン Let's cold our bodies!
56	地域・健康	足首と走るものの関係
57	社会・異文化	tik tokのバズり方は世界で違うの!?～アメリカと日本で比べてみよう～
58	社会・異文化	岸校生はどのような料理を和食と認識するのだろうか
59	社会・異文化	さまざまな国・地域の人の金銭感覚の違いとは？
60	社会・異文化	過疎化をモデル化
61	社会・異文化	日本の大学受験は今後どのように変化していくのだろうか。
62	社会・異文化	日本の食卓と海外の関係
63	社会・異文化	SNSが人間に与える影響
64	社会・異文化	特定の絵文字（例：👍、👎、👉）に対し、10代と40代以上では「受ける印象（ポジティブ/ネガティブ）」にどれくらい差があるのか？
65	社会・異文化	どんな音楽のジャンルが一番勉強効率がいいか
66	社会・異文化	岸和田で新しく名産を作るのならどんなものだろう
67	社会・異文化	ヒトラーからジョブズまで～近代史から学ぶ最高のプレゼン術～
68	社会・異文化	男女平等の限界
69	社会・異文化	日本と海外の給食の違い
70	社会・異文化	日本のルールとは…？ 海外のルールとの差で生まれる問題とそれを解決するための策は…？
71	社会・異文化	大阪弁と泉州弁の境界線とは？～マップを添えて～
72	人文・人間	岸高生が勉強したくなる学校にするには？
73	人文・人間	人の癖はどのようなときにあらわれ、心理的な面でどのように影響を及ぼしているのか。
74	人文・人間	昔話に映る時代
75	人文・人間	名前と人間関係との繋がり
76	人文・人間	♥兄弟関係と好きなタイプの関係♥
77	人文・人間	アニマルセラピー
78	人文・人間	やればできるは実現するのか？
79	人文・人間	ICT教育vsアナログ教育
80	人文・人間	MBTIのタイプによって仲の良い友人とあまり関わる頻度が少ない人とのコミュニケーションスタイルにどのような違いがあるのか。
81	人文・人間	～mbti別 向いている勉強方法～
82	人文・人間	蛙化現象の原因
83	人文・人間	宗教・国家を通して見る個人の価値観とその活用
84	人文・人間	ひらがなを書き文字で発展させる
85	人文・人間	声の分析から見える緊張度とリラックス法の比較研究
86	人文・人間	岸高生にもっとU.S.J.に行ってもらいにはどうすればいいか。
87	人文・人間	身体や感情に関する慣用表現は地域によってどのように変化するのか。
88	人文・人間	最高なアンケートの取り方
89	人文・人間	環境による心身の変動について

研究テーマ一覧【文理課題研究・２年】

２年次「文理課題研究」における研究テーマの一覧である。中間発表から最終発表にかけてのテーマの変化を整理している。一部の研究では、問いの具体化や対象・条件の明確化が進み、研究の焦点がより明瞭になっている。また、検証方法の再設定や視点の転換など、探究の深化に向けた試行錯誤の様子も見られる。

No.	学域	Nova	中間発表タイトル	最終発表タイトル	問いの具体化
1	数理・自然科学	Nova	薬についてもっと知ってみたい？	市販薬って結局どれがいいの？	(対象が明確化)
2	数理・自然科学	Nova	止血法を学べるキットづくり	止血法を学べるキットづくり	
3	数理・自然科学	Nova	果衆と階衆の関係性	果衆と階衆の関係性	
4	数理・自然科学	Nova	ブラナリアの自切及び成長する条件の探索	ブラナリアの自切及び成長する条件の探索	(対象・方法が具体化)
5	数理・自然科学	Nova	スクミリンゴガイを減らす方法	スクミリンゴガイを減らす方法	
6	数理・自然科学	Nova	未来の野菜を想像する	未来の野菜を創造する	
7	数理・自然科学	Nova	植物を抑制する条件の探索	薬を使わずに薬を死滅させる方法	(対象・方法が具体化)
8	数理・自然科学	Nova	魚のストレス測定方法についての検証	魚のストレス方法の検証	
9	数理・自然科学	Nova	生物由来有用物質の探索と応用	生物由来有用物質の探索と応用	
10	数理・自然科学	Nova	小さい子供でも薬が簡単に飲める方法	小さい子供でも薬が簡単に飲める方法	(対象限定)
11	数理・自然科学	Nova	除草剤について	除草剤について	
12	数理・自然科学	Nova	モノを浮かして動かすには	リニアの原点を探る	
13	数理・自然科学	Nova	絶対に壊れない割り箸ハウスづくり	絶対に壊れない割り箸ハウスづくり	(対象具体化)
14	数理・自然科学	Nova	水力発電を身近な存在に！	小型水力発電の現実を知る～小型水力発電の可能性～	
15	数理・自然科学	Nova	栄光の架橋 ～橋の強度と構造～	栄光の架橋 ～トラス橋の強度と構造の関係～	
16	数理・自然科学		スコーンの食感と膨らみに影響を与える要因の組み合わせを調べる	スコーンの膨らませ方！	(構造的限定)
17	数理・自然科学		ふわふわなパンケーキ作り	ふわふわなパンケーキ作り	
18	数理・自然科学		松ヤニがつきにくい、とれやすい物質を探す	身近なもので松脂を落とす方法	
19	数理・自然科学		三つ葉は四つ葉に近いのか！？	油汚れに一番効く洗剤は？	(テーマ転換＝再設定)
20	数理・自然科学		最も効果的な紫外線対策	紫外線対策 ～データから見る日焼け止めの効果～	(検証型へ)
21	数理・自然科学		水溶液の蒸発について	蒸半紙の効率的な乾かし方	(対象限定)
22	数理・自然科学		カレーうどんの汚れと布の関係	カレーうどんと布の汚れの関係～汚れも恋も落としちゃえ！～	(条件限定)
23	数理・自然科学		進化系〇×ゲーム	進化系〇×ゲーム	
24	数理・自然科学		身近な食材での肥料作り	身近な食材での肥料づくり	
25	数理・自然科学		外来生物から魚雷づくり～外来種を有効活用したい～	外来生物から魚雷づくり～外来種を有効活用したい～	(焦点整理)
26	数理・自然科学		異なる蜂の巣のフェロモンに反応するの？	唐辛子は蜂にどのような影響があるのか。	
27	数理・自然科学		廃棄される野菜や果物の活用方法～リップをつくってみよう！～	廃棄される野菜や果物の活用方法～リップを作ってみよう！～	
28	数理・自然科学		植物の成長に最適な周波数とは	植物の成長に最適な周波数とは	(測定可能化)
29	数理・自然科学		エマルション（乳化液）の濃度と流速の関係性	エマルションの運動について	
30	数理・自然科学		最高効率のバスケットボール	バスケのオフェンス能力を数値化しよう！	
31	数理・自然科学		一番良く飛ぶ！ペットボールロケットの形状	ペットボールロケットが一番よく飛ぶ先達の形状	(現象具体化)
32	数理・自然科学		滑らない靴底の形状	滑りにくい靴底の形状	
33	数理・自然科学		音が描く水のアート～周波数による模様の変化～	水は周波数で振れるのか～水面の模様と流れの探究	
34	数理・自然科学		ChatGPTによる統計処理と正確性	ChatGPTは数学ができない！？ ～打倒岸高数学科～	(検証仮説型)
35	数理・自然科学		モノの断熱性	モノの断熱性	(対立構図→研究目的明確化)
36	数理・自然科学		最強の音 ソルフェジオ周波数 174hz a.k.a 安定の音の可能性	最強の音 ソルフェジオ周波数 174hz a.k.a 安定の音の可能性	
37	情報・芸術	Nova	立体標本の活用	3D Digital Archive ― 生物標本の発展的利用 ―	
38	情報・芸術		英単語を耳に着目して効率よく勉強しよう！	英単語を耳に着目して効率よく勉強しよう！	(対立構図→研究目的明確化)
39	情報・芸術		課題に生成AIを使いたい岸高生 vs 教師陣	生成AIを学習ツールとして使いこなす	
40	情報・芸術		食堂予約連携システムをつくらう～食堂を使いやすく～	食堂連携予約システムをつくらう～食堂を使いやすく～	
41	情報・芸術		絵画鑑賞によるヘルスケアを～健康は目から～	健康は目から！！～アートが生み出すエネルギー～	(応用対象明確化)
42	情報・芸術		岸高のロゴをつくっちゃおう	岸高のlogoを見やすくしよう	
43	情報・芸術		より良い部活を目指して	部活動の独自性 -FocusOn演劇部-	
44	情報・芸術		AIと人のイラスト制作 ―それぞれの強みと役割―	イラストTPO AIと人間を使い分けろ！！	(焦点整理)
45	情報・芸術		観光列車のスヌー「観光列車って知ってる？」	観光列車のスヌー	
46	情報・芸術		見る記憶・聴く記憶 ―思い出すのは偶然か、戦略か―	CMの秘密 ―思い出すのは偶然か、戦略か―	
47	情報・芸術		お前が主役の応援ソング、作っといたぞ	お前が主役の応援ソング、作っといたぞ	(条件限定)
48	情報・芸術		化粧品パッケージと購買意欲の関係性～リップのパッケージデザイン～	化粧品パッケージと購買意欲の関係性～リップのパッケージデザイン～	
49	情報・芸術		1秒で覚醒！？最速で起きられるアラーム音 ～寝起き革命を起こす～	1秒で覚醒！？最速で起きられるアラーム音～寝起き革命を起こす～	
50	情報・芸術		文字の表現力の活用 ～食堂メニュー～戦国時代～	文字の表現力の活用 ～食堂メニュー～戦国時代～	(焦点整理)
51	情報・芸術		音楽とジャケットの関係性	音楽とジャケットの関係性	
52	地域・健康		青年体操改革	青年体操改革	(バフォーマンス指標追加)
53	地域・健康		ストレッチによる肩甲骨の可動域の変化	ストレッチとハンドボール投げの関係	
54	地域・健康		筋肉部位別トレーニングによるスポーツパフォーマンスへの効果	筋肉部位別トレーニングでのスポーツパフォーマンスへの効果～立ち幅跳び、遠投編～	
55	地域・健康		水たまりを乾かす様々な方法	水たまりを乾かす様々な方法	(焦点整理)
56	地域・健康		AIカメラとサッカーの融合	AIカメラとサッカーの融合	
57	地域・健康		高校野球におけるコース別で一番三振が取れる球種	高校野球におけるコース別で一番三振が取れる球種	
58	地域・健康		股関節の可動域を広げて速く走れるようになろう	股関節の可動域を広げて速く走れるようになろう	(条件明確化)
59	地域・健康		マーカ一走を使って理想の走りに近づこう！	マーカ一走を使って理想の走りに近づこう！	
60	地域・健康		目指せテニスのchampion<テニスにおいてコントロールや打球速度を向上させるには>	目指せテニスのchampion<テニスにおいてコントロールや打球速度を向上させるには>	
61	地域・健康		お風呂と睡眠～質のよい睡眠を取る最適解～	お風呂と睡眠～質のよい睡眠を取る最適解～	(対象限定)
62	地域・健康		緊張を抑えるには	緊張を抑えるには	
63	地域・健康		勉強中眠くなったときの仮眠効果について	勉強中眠くなったときの仮眠効果について	
64	地域・健康		これって食品ロス？～岸和田高校での食品の過剰除去の定義～	これって食品ロス？	(地域視点整理)
65	地域・健康		分別したくなるゴミ箱を作ろう～持続可能な岸和田高校へ～	分別したくなるゴミ箱を作ろう～持続可能な岸和田高校へ～	
66	地域・健康		ローソンで買える健康ごはんの組み合わせ	ローソンで買える健康ごはんの組み合わせ	
67	地域・健康		若者の和菓子離れを解消するために	スイーツ戦国時代～甘いくない現実～	(対象限定)
68	地域・健康		紅ずいきの可能性を信じて！	紅ずいきの可能性を信じて！	
69	地域・健康		アレルギー博士になろう！	食物アレルギー博士になろう！	
70	地域・健康		キャッチコピーや写真が購入者に与える影響	「美味しそう」は作れる？～メニュー表が与える心理効果～	(研究対象明確化)
71	地域・健康		かしみん焼きを広めて泉州に観光客を増やす	泉州もっと！知りたえン	(地域視点整理)
72	地域・健康		ソルガムで広げる新しい食の選択肢	ソルガムで広げる新しい食の選択肢	(焦点整理)
73	地域・健康		食品廃棄物を減らそう	食品廃棄物を減らそう	
74	社会・異文化		次にくるバトル漫画はどんなのか	次に来るバトル漫画はなんだ！	
75	社会・異文化		熊取を住みよい場所へ	熊取を人口減少を食い止める	(課題具体化)
76	社会・異文化		春の甲子園の21世紀枠を予想しよう	春の甲子園の21世紀枠を予想しよう	
77	社会・異文化		ヘアスタイルで印象はどう変わるのか	ヘアスタイルで印象はどう変わる？	
78	社会・異文化		小学校低学年にスマートフォンを渡せるためには	小学生が安全にスマートフォンを使用するためには	(条件明確化)
79	社会・異文化		絵が語るルネサンス	西洋絵画のすゝめ	(焦点整理)
80	社会・異文化		Love & Proverbs ～ことわざから探る日本と英語の恋愛観～	ことわざからみる日本語と英語の文化の違い	(条件明確化)
81	社会・異文化		単語は分解できる！ ～接頭語・語根・接尾語始まる新しい語彙学習～	単語は分解できる！ ～接頭語・語根・接尾語で始まる新しい語彙学習～	
82	社会・異文化		ChatGPTで英検のライティングを攻略！	AIを使って英検のライティングを攻略！	

No.	学域	Nova	中間発表タイトル	最終発表タイトル	問いの具体化
83 人文・人間	Nova	性格に基づく損失回避と意思決定	性格に基づく損失回避と意思決定	性格に基づく損失回避と意思決定	
84 人文・人間	Nova	作品解釈において色彩語は有効か～太宰治と堀辰雄で比較して～	作品解釈において色彩語は有効か～太宰治と堀辰雄で比較して～	作品解釈において色彩語は有効か～太宰治と堀辰雄で比較して～	
85 人文・人間	Nova	ストレスの測定	ストレスの測定～高校生のより良い生活のために～	ストレスの測定～高校生のより良い生活のために～	(対象明確化)
86 人文・人間		睡眠ガチ勢による睡眠ガチ攻略～催眠効果のある音楽と朝の寝起き～	睡眠ガチ勢による睡眠ガチ攻略～催眠効果のある音楽と朝の寝起き～	睡眠ガチ勢による睡眠ガチ攻略～催眠効果のある音楽と朝の寝起き～	
87 人文・人間		推しがいるとはどのような？～推しの有無で見る心理の違い～	推しがいるとはどのような？～推しの有無で見る心理の違い～	推しがいるとはどのような？～推しの有無で見る心理の違い～	
88 人文・人間		なぜ人間失格は2世代からも支持されるのか～いい子症候群と葉蔵の共通点～	なぜ人間失格は2世代からも支持されるのか	なぜ人間失格は2世代からも支持されるのか	
89 人文・人間		あなたはインスタで「いいね」してますか？～SNSの利用法と性格の関係～	インスタグラムに映る性格	インスタグラムに映る性格	(研究焦点明確化)
90 人文・人間		性格とストレス発散法～現代社会を生きやすく～	性格とストレス発散法～生きやすい生き方を目指して～	性格とストレス発散法～生きやすい生き方を目指して～	
91 人文・人間		順序記憶による暗記の効率化	順番に関する記憶の効率化	順番に関する記憶の効率化	(概念整理)
92 人文・人間		現代社会の大人はなぜ生きるのか～おとなになっても楽しみたい～	現代社会の大人はなぜ生きるのか～おとなになっても楽しみたい～	現代社会の大人はなぜ生きるのか～おとなになっても楽しみたい～	
93 人文・人間		戻ってこないものは何？～ことわざに現れる表現の違い～	世界のことわざはこう語る～概念メタファーから読み解く文化の違い～	世界のことわざはこう語る～概念メタファーから読み解く文化の違い～	(理論化)
94 人文・人間		教室掃除の参加と掃除の習慣化	教室掃除の参加と掃除の習慣	教室掃除の参加と掃除の習慣	
95 人文・人間		「わかる」ということ	授業は、何をもって「わかりやすい」とされるのか	授業は、何をもって「わかりやすい」とされるのか	(研究化)
96 人文・人間		心理戦に勝つ！！～Daigoになりたい！！～	心理戦に勝つ！！～Daigoになりたい！！～	心理戦に勝つ！！～Daigoになりたい！！～	
97 人文・人間		MBTIと文理選択	MBTIで解き明かす！あなたの最適な進路	MBTIで解き明かす！あなたの最適な進路	
98 人文・人間		色でストレス軽減～適切な色の取り入れ範囲～	色でストレス軽減 ～適切な色の取り入れ範囲～	色でストレス軽減 ～適切な色の取り入れ範囲～	
99 人文・人間		双子の見分け方	双子の見分け方～寛双生児をどこで見分けているのか～	双子の見分け方～寛双生児をどこで見分けているのか～	
100 人文・人間		性の多様性が認められた教育現場にするには	性の多様性が認められた教育現場にするには	性の多様性が認められた教育現場にするには	
101 人文・人間		虫嫌いの謎を解明 ～心のバグを解き明かせ～	虫嫌いの謎を解明 ～心のバグを解き明かせ～	虫嫌いの謎を解明 ～心のバグを解き明かせ～	
102 人文・人間		不登校の子が関わりを持てるように	不登校の子が関わりを持てるように～不登校とコミュニティの関係～	不登校の子が関わりを持てるように～不登校とコミュニティの関係～	
103 人文・人間		少子高齢化	課題研究における「問いの立て方」の理論と実践的課題に関する考察	課題研究における「問いの立て方」の理論と実践的課題に関する考察	(メタ研究化)
104 人文・人間		映画体験-映画体験の頻度と一貫性の有無～	映画体験	映画体験	
105 人文・人間		ネットミームで楽しく英語を学ぼう！～よりよい英語教育のために～	ネットミームで楽しく英語を学ぼう！～よりよい英語教育のために～	ネットミームで楽しく英語を学ぼう！～よりよい英語教育のために～	

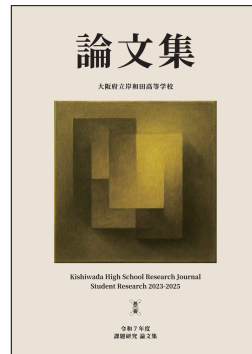
研究テーマ一覧【キャリアスタートゼミ・3年】

3年次「キャリアスタートゼミ」における研究テーマの一覧であり、論文集も公開している。

No.	学域	Nova	テーマ
1 数理・自然科学	Nova	植物を用いた塩害の解決法の検討	
2 数理・自然科学	Nova	電力変換効率を上昇させるための昇圧回路の作成	
3 数理・自然科学	Nova	交差点における交通事故防止のための補助装置の提案	
4 数理・自然科学		市販のリップクリームの調査	
5 数理・自然科学		石鹸の種類によって汚れの落ち方はどう変わる？	
6 数理・自然科学		ヘアオイルで理想の髪に	
7 数理・自然科学		ムペンバ効果の起こる条件とその再現性	
8 数理・自然科学		超音波パワーで水が凍らなくなる！？	
9 数理・自然科学		サクサクな天ぷらづくり	
10 数理・自然科学		一番いい日焼け止めはどれ？	
11 数理・自然科学		化粧水の効果を上げる方法	
12 数理・自然科学		進化系〇×ゲームの必勝法	
13 数理・自然科学		岸高生の形への感じ方	
14 数理・自然科学		メジャーの長さとおねじる回数の関係性	
15 数理・自然科学		『ヘアドネーション』を広めよう！	
16 数理・自然科学		植物に感情はあるのか	
17 数理・自然科学		光の色による違いで抑制栽培？	
18 数理・自然科学		ユーカリによるカビの除去	
19 数理・自然科学		”決闘”永久のオゾン層vs人間	
20 数理・自然科学		植物と水の関係～与える飲み物の違いによって植物の成長速度はどう変化するのか～	
21 数理・自然科学		良い睡眠導入	
22 数理・自然科学		模型を用いた効率の良い換気方法の調査	
23 数理・自然科学		「静電気」を減らせ！	
24 数理・自然科学		ペットボトルフリップの成功率を高める	
25 数理・自然科学		昼における動物対策	
26 情報・芸術		岸高Redesignホームページ・VRマップの再設計 (M)	
27 情報・芸術		岸高Redesignホームページ・VRマップの再設計 (F)	
28 情報・芸術		過去のファッションの流行から次のファッションの流行を予測できるのか。	
29 情報・芸術		AIが作った音楽と人間が作った音楽とは何が違う？	
30 情報・芸術		音楽を使って食堂のアイスの売上を上げよう	
31 情報・芸術		最も効果的な日本語を学ぶ手順について	
32 情報・芸術		昭和歌謡とJPOPのテンポの違い	
33 情報・芸術		カラオケで点数の高い歌と人が聞いて上手だと感じる歌はどう違うのか	
34 情報・芸術		言葉・文字・歌によるスポーツでの最適な応援を見つけよう	
35 情報・芸術		和菓子の見栄えと人の購買意欲の関係性	
36 地域・健康		岸和田市の人口減少を防ぐためには？	
37 地域・健康		給食を通して食品ロスを減らす	
38 地域・健康		データから考える結婚の適性タイミング	
39 地域・健康		雑穀ソルガムの活用方法の提案	
40 地域・健康		子ども食堂を通じて孤食を減らす	
41 地域・健康		泉州にもっと観光客を呼び込むには？	
42 地域・健康		泉南地区から考える給食無償化	
43 地域・健康		調理時間の短縮法	
44 地域・健康		岸和田市のゴミの分布と対策	
45 地域・健康		高校野球のあり方の提案～現場と運営の現状から～	
46 地域・健康		障がい者理解を深める手法を考える！	
47 地域・健康		AIカメラとサッカーの融合	
48 地域・健康		レセプションとディグのAカット率と腕の角度との関係性	
49 地域・健康		音楽が与える運動への影響	
50 地域・健康		野球ユニホームの効果的な予洗い方法について	
51 地域・健康		平日と休日の睡眠時間の差と睡眠の質の改善	
52 地域・健康		ピッチャーにより必要なのは制球？球速？	
53 地域・健康		発声による球速の変化	
54 地域・健康		走高跳における踏切動作での記録の違い	
55 地域・健康		走幅跳の踏切時における意識の違いによる記録の変化	
56 地域・健康		眠気ざまし	

No.	学域	Nova	テーマ
57 社会・異文化		c m のもたらす印象の変化	
58 社会・異文化		インスタグラムを用いた効果的な宣伝方法	
59 社会・異文化		だんじりをどのように伝承していく？	
60 社会・異文化		ながらmusic	
61 社会・異文化		パレスチナ問題を伝える～解決への道～	
62 社会・異文化		岸和田オクトパス設立をめざして～独立リーグ球団と地域社会との関わりについて～	
63 社会・異文化		岸高祭での「キャッシュレス学園祭」実施のメリット・デメリット	
64 社会・異文化		モチベーションの上げ方～モチベ上げてテスト勉強を頑張ろう～	
65 社会・異文化		人口増加のために必要な行政政策とは～市町村合併の事例を中心に～	
66 社会・異文化		次世代へ繋ぐサステナブルファッション～服を世界へ～	
67 社会・異文化		NO 給食NO LIFE～給食会社へ負担をかけず、安心で子どもたちが満足できる給食のために～	
68 社会・異文化		忠岡駅周辺にある落書きの防止策について～ウォールアートの実現可能性～	
69 社会・異文化		育休を取りやすい社会へ～日本の育休問題～	
70 社会・異文化		漫画と教育	
71 社会・異文化		論議の解釈について	
72 社会・異文化		韓国ブームについて調べてみた	
73 社会・異文化		使える英語を習得しよう	
74 社会・異文化		日本のいじめをくすすには	
75 社会・異文化		戦争と自殺率の関連性	
76 社会・異文化		報道の自由を知ってほしい	
77 人文・人間		マイノリティと学校生活 ～岸高における多様性の尊重～	
78 人文・人間		歌詞による暗記力の違いを調べる	
79 人文・人間		子供にとって最適な環境と教育	
80 人文・人間		「主体的に学習に取り組む態度」の新しい評価尺度を考える	
81 人文・人間		岸高生の友達との勉強で得られる効果	
82 人文・人間		出生順位による性格の違いにおける先行研究との違い	
83 人文・人間		岸高生にとって話しかけやすいのはどんな人？	
84 人文・人間		自分らしく生きる@学校 ～教員のLGBT理解と研修～	
85 人文・人間		精神疾患の防止と改善	
86 人文・人間		男女の恋愛価値観の違いについて	
87 人文・人間		清掃活動を通じたコミュニケーション能力の向上	
88 人文・人間		幼少期に身につける絵本の習慣	
89 人文・人間		最高のアンケートの取り方	
89 人文・人間		環境による心身の変動について	

令和7年度 課題研究 論文集



令和7年度 第1回スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会 議事録

○ 運営指導委員の発言

● 本校出席者の発言

日 時：令和7年9月11日（木）15:20～16:50

場 所：大阪府立岸和田高等学校 会議室

概 要

1. 岸和田高校 SSH 事業計画に基づく本年度の取組と今後について（報告）

- 本校は SSH 第Ⅲ期 4 年目であり、3 学年同時展開による縦割り型課題研究を継続している。
- 「探究ログ」や校内探究ポータル「キンデジ」を活用し、生徒の研究進捗を可視化・共有する体制を整備している。
- 和泉高校等との連携を進め、探究活動や ICT 活用に関する校内システムの共有・運用について情報交換を行っている。
- プロジェクト Nova は応募者増加を受け、選抜制で実施している。
- サイエンスツアー、サイエンスカフェ、学会発表等を通じて探究活動の幅を広げている一方、外部成果の分析、評価の在り方、地域連携の持続性、ICT 運用負荷等が課題である。
- 課題研究については進路との接続を意識した指導を行っており、教員による発表や助言を通じて、教員自身も探究活動に関わる姿勢を重視している。
- 3 学年同時展開により、学年間のつながりや先輩の研究を参考にする文化が徐々に定着してきている。
- 評価については一定の基準を共有しつつも、生徒の試行錯誤や思考過程を重視した見取りを行うことを基本方針としている。

2. 質疑応答・指導助言・発表会の講評等

- 課題研究発表会について、生徒どうしの質疑応答が活発であり、説明力・対話力が向上していると感じた。他校との交流の意義をどう捉えているか。
- 他校生徒という「未知の相手」に説明する経験を通じ、研究内容を客観的に整理する力が育っていると考えている。今後も継続的な交流を重視したい。
- AI 関連テーマが増えている点は興味深い、人間が考えることとの違いをどのように指導しているか。
- 現段階ではテーマ設定段階での注意喚起が中心である。今後は AI の活用と限界を意識させ、思考の主体が生徒自身にあることをより明確にした指導を検討している。
- AI テーマは二極化していく可能性があるが、それ自体は悪いことではない。哲学的な問いと結びつけることで、より深まりが期待できる。
- 研究内容自体は良いが、発展性や社会への還元が生徒自身が気付いていない例が見られる。
- 指摘のとおりであり、理由付けや理論的裏付けを意識させる指導、外部との接続を見据えた視点を今後強化したい。

- 発表を聞いていると、前提知識を共有している相手には伝わるが、初見の相手には分かりにくい説明も一部見られた。
- 阿吽の呼吸に頼らず、研究の背景や用語を丁寧に説明する姿勢を今後さらに指導していきたい。
- 他校との交流は、その点を意識させる良い機会になっていると感じる。
- 評価の客観性について課題が挙げられているが、どのように考えているか。
- ルーブリックは一定の指針として用いているが、形式に引きずられないよう注意している。
- 評価の正確性を追いつけるより、教師と生徒の活動そのものを重視すべきであり、ルーブリックの固定化には留意が必要である。
- テーマが細分化・高度化してきている一方で、過去の研究との重複が起きていないか留意する必要がある。
- テーマ設定段階での確認や、過去の研究の参照をより意識させる指導を行ってきたい。
- 次期 SSH 申請について、類型選択の考え方をどのように整理しているか。
- 類型選択については、校内体制の強化と学校間連携の在り方を整理した上で判断したい。
- プロジェクト Nova の評価は、数値化よりも学会発表や論文等の外部発信で示す方法も有効である。
- 生成 AI については、今後 AI エージェント等の展開も想定されるため、中長期的な視点で検討するとよい。
- 全体として、本校の探究活動は一定の水準に達しており、今後は質の向上と持続可能な体制づくりが重要になる。

出席者（敬称略）

武庫川女子大学 社会情報学部 学部長・教授 鯨坂 恒夫
 大阪教育大学 教育学部 教授 町頭 義朗
 関西医科大学 教授 石崎 優子
 大阪公立大学 現代システム科学研究科 教授 森岡 次郎
 神戸女学院大学特任教授・大阪公立大学客員研究員 伊井 直比呂
 国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）理数学習推進部先端学習グループ主任専門員 三ツ井 良文
 大阪府教育庁 教育振興室 高等学校課 教務グループ 指導主事 高嶋 宏
 大阪府教育センター 高等学校教育推進室 教科教育推進グループ 指導主事 田頭 修

校長 植木 信博	教頭 田坂 太一
首席（SSH・情報）鈴木 研太	教諭（SSH 探究部長・数学）疋田 眞子
教諭（Nova・SD・物理）伊東 夏希	教諭（Nova・課題研究・生物）正田 幸太郎
教諭（CS・国語）川村 亮介	教諭（広報・情報）松田 忠子
実習教員（広報・ICT）庄田 友大	

令和7年度 第2回スーパーサイエンスハイスクール運営指導委員会 議事録

○ 運営指導委員の発言

● 本校出席者の発言

日 時：令和8年1月24日（土）13:00～15:00

場 所：大阪府立岸和田高等学校 会議室

概 要

1. 岸和田高校 SSH 事業計画に基づく本年度の取組と今後について（報告）

- 本校より、課題研究の指導体制、年間を通じた指導の流れ、1年生から3年生までの学年接続を意識した取組について説明を行った。
- 文理課題研究発表会に向けては、「探究ログ」や校内ポータル「キシデジ」を活用し、生徒の研究過程を共有しながら指導を進めてきた。
- 全校的な探究活動を基盤としつつ、プロジェクト Nova を特化的・高度化プログラムとして位置づけ、指導体制の整理を進めている。
- 発表会を通じて、生徒が研究成果を他者に伝える経験を積むとともに、来年度以降の探究活動につながる視点を得ることを重視している。

2. 質疑応答・指導助言・発表会の講評等

- 文理課題研究発表会について、生徒どうしの質疑応答が非常に活発で、発表者と聴衆が一体となった発表会であったという印象がある。スライドも分かりやすく整理され、完成度の高い発表が多かった。
- 一方で、高校段階の探究として、「大学で行う研究のミニチュア」を目指すことが目的化していないかという印象もあり、高校ならではの探究の意義をどのように捉えるかが課題である。
- 本校としては、完成度の高さだけでなく、生徒が自ら問いを立て、試行錯誤する過程を重視しており、高校生の視点から生まれる問いを大切にしたいと考えている。
- 研究テーマについては、AI・IT系のテーマが多く、高校生らしい着眼点が見られる一方で、HOW TO 型や必勝法的なまとめ方に寄っている研究も多い印象がある。
- テーマ設定段階で注意喚起は行っているが、今後は「なぜその問いを立てたのか」「その問いにどのような意味があるのか」をより意識させる指導を行っていきたい。
- その中で、「問いの立て方が分からない」という経験そのものを研究テーマとして扱った発表が印象に残り、探究にうまく乗れない経験も研究として価値があると感じた。
- 全体として発表は上手であったが、サンプル数や結論の妥当性など、研究内容そのものについては、研究者の視点でさらに深められる余地もある印象がある。
- また、課題解決型・ニーズ志向の研究が多く、ピュアサイエンス的な探究はやや少ない印象を受けた。
- 本校の地域性や生徒の関心を反映した結果と捉えつつ、今後は理数系分野における基礎的・探究的な研究にも取り組めるよう工夫していきたい。

- 学年間接続の面では、先輩の研究を引き継いだり参考にしたりする生徒が見られ、試行的・探索的なテーマも含めて、探究活動が立体的につながりつつある点が本校の特徴であると感じる。
- 研究倫理や引用の扱いについては、今後さらに意識していく必要があり、高校段階としてどこまでを求めるのか整理が必要ではないか。
- 「課題研究メソッド」等の教材も参考にしながら指導を行っているが、運用面では改善の余地があり、引き続き検討していきたい。
- 探究活動に馴染みにくい生徒は一定数存在するが、通常授業には参加しにくくても、探究活動には前向きに取り組む生徒もおり、そのような姿を大切にしている。
- そうした生徒を包摂できている点は、非常に意義のある取組であるという印象がある。
- プロジェクト Nova について、1年生の段階でも成果につながるポテンシャルが育っているのか、またサイエンスツアーは Nova 以外の生徒も参加できるのか。
- 企画は全体で希望を募り、Nova の生徒を優先しつつ、Nova 以外の生徒にも参加の機会を設けている。
- Nova を特別な枠に閉じず、全体の探究活動とつながる形で位置づけられている点は意義があると感じる。
- Nova の活動には一定の負担があるが、成果が得られた際には大きな達成感や満足感を得ている生徒も多く、負担と成長のバランスを意識した運営が重要であるという印象がある。
- これまでに医学部へ進学した生徒が複数おり、探究活動を通して身につけた姿勢や経験が進路選択にもつながっていると考えられる。
- 高大連携や共同研究については、大学教員や学生と直接関わる機会が生徒にとって良い刺激となり、個人や研究室単位での連携、倫理面の手続きを経た共同研究や学会発表に至る例も見られる。

出席者（敬称略）

大阪大学 工学研究科 名誉教授 河崎 善一郎

京都大学 大学院理学研究科 教授 中家 剛

大阪教育大学 教育学部 教授 町頭 義朗

関西医科大学 教授 石崎 優子

大阪大学 量子情報・量子生命研究センター 教授 根来 誠

大阪公立大学 現代システム科学研究科 教授 森岡 次郎

神戸女学院大学特任教授 大阪公立大学客員研究員 伊井 直比呂

大阪公立大学 現代システム科学研究科 教授 西田 芳正

大阪府教育庁 教育振興室 高等学校課 教務グループ 指導主事 塚本 翼

大阪府教育センター 高等学校教育推進室 教科教育推進グループ 指導主事 田頭 修

校長 植木 信博

首席（SSH・情報）鈴木 研太

教諭（Nova・SD・物理）伊東 夏希

教諭（CS・国語）川村 亮介

実習教員（広報・ICT）庄田 友大

教頭 田坂 太一

教諭（SSH 探究部長・数学）疋田 眞子

教諭（Nova・課題研究・生物）正田 幸太郎

教諭（広報・情報）松田 忠子

教育課程表【令和5年度入学生】

全日制の課程 文理学科 教育課程実施計画

(入学年度別・類型別・教科・科目等単位数)

教科 科目		入学年度		R5											備考
		コース・類型	学年	文科(人文社会国際系)					理科(理数探究系)						
				I	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	計	I	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	計		
国語	現代の国語	2					17	2					14		
	言語文化	3						3							
	古典探究		□3/■2	4					2	3					
	(学)現代文探究		2	□3/■2					2	2					
	(学)国語スーパー演習		■1	■1											
地理歴史	地理総合	2					8	2					6	2年次2学期から文科2科目、理科1科目選択	
	地理探究		2★						2★						
	歴史総合	2						2							
	日本史探究		2★						2★						
	世界史探究		2★						2★						
公民	公共		2				2～8		2				2, 5		
	倫理				3▽					3▽					
	政治・経済				3▽					3▽					
数学	数学Ⅰ						0～3						0, 2	「理数数学Ⅰ」により3単位代替	
	(学)数学記述演習				2△										
	(学)数学スーパー演習(文)		■1												
	(学)数学スーパー演習(理)							■1	■1						
理科	物理基礎						2						1▲より2科目選択	「理数基礎物理」により2単位代替 「理数基礎化学」により2単位代替 「理数基礎生物」により2単位代替 「理数基礎地学」により2単位代替	
	化学基礎														
	生物基礎														
	地学基礎														
	(学)物理演習				1▲										
	(学)化学演習				1▲										
	(学)生物演習				1▲										
	(学)地学演習				1▲										
保健体育	体育	2	2	3			9, 11	2	2	3		9			
	保健	1	1					1	1						
	(学)発展体育				2△										
芸術	音楽Ⅰ・美術Ⅰ・書道Ⅰ	2					2, 4	2				2			
	音楽Ⅱ・美術Ⅱ・書道Ⅱ				2△										
外国語	英語コミュニケーションⅠ													「総合英語Ⅰ」により3単位代替	
家庭	家庭基礎		2			2		2			2				
情報	情報Ⅰ						0, 2							「国際情報」により2単位代替	
	(学)情報演習				2△										
理数	理数探究													「文理課題研究」により2単位代替	
家庭	フードデザイン				2△		0, 2								
理数	理数数学Ⅰ	5					20～23	5					37, 39	3年次理科は4★より1科目選択	
	理数数学Ⅱ		□6/■5						□7/■6						
	理数数学特論									◇■3					
	理数物理								2						
	理数化学								2						
	理数生物								2						
	(学)理数数学Ⅱβ演習									◇4/■3					
	(学)理数数学Ⅰ総合演習				2					○2					
	(学)理数数学Ⅱ総合演習				2△					○2					
	(学)理数数学記述演習									○3					
	(学)理数基礎物理	2						2							
	(学)理数基礎化学	2						2							
	(学)理数基礎生物	2						2							
	(学)理数基礎地学		2												
	(学)理数発展物理										4★				
(学)理数発展化学									4						
(学)理数発展生物									4★						
英語	総合英語Ⅰ	3					20	3				16			
	総合英語Ⅱ		□5/■4						□5/■4						
	総合英語Ⅲ				□6/■5					◇○6/■5					
	ディベート・ディスカッションⅠ	2						2							
	(学)異文化理解		2												
	(学)骨太英語				2										
(学)英語スーパー演習		■1		■1			■1		■1						
国際人材	(学)セレンディピティ	1					6～12	1				6～9			
	(学)国際情報	2						2							
	(学)文理課題研究		2						2						
	(学)キャリアスタートゼミ				1					1					
	(学)GG				3▽					3▽					
	(学)GHJ				3▽					3▽					
	(学)GHW				3▽					3▽					
教科・科目の計		33	33	33		99	33	33	33		99				
総合的な探究の時間		0	0	0			0	0	0				「セレンディピティ」「理数探究(文理課題研究)」で3単位代替		
特別活動 ホームルーム活動		1	1	1		3	1	1	1		3				
総計		34	34	34		102	34	34	34		102				
選択の方法		□のグループか、■のグループを選択(他教科とも連動) 3年次に2△より2科目選択 ただし「音楽Ⅱ」「美術Ⅱ」「書道Ⅱ」は、1年次にそれぞれ「音楽Ⅰ」「美術Ⅰ」「書道Ⅰ」を履修している場合に限り選択できる 3年次に3▽より2科目選択 ただし「GG」「GHJ」「GHW」は、2年次にそれぞれ「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」を履修している場合に限り選択できる					2年次は□か■のグループを選択(他教科とも連動) 3年次は◇・○・■のグループより1つ選択(他教科とも連動) ただし◇と○は2年次に□のグループを選択した場合、■は2年次に■のグループを選択した場合に限る 3年次は3▽より1科目選択 ただし「GG」「GHJ」「GHW」は、2年次にそれぞれ「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」を履修している場合に限り選択できる								

教育課程表【令和6年度入学生】

全日制の課程 文理学科 教育課程実施計画

(入学年度別、類型別、教科・科目等単位数)

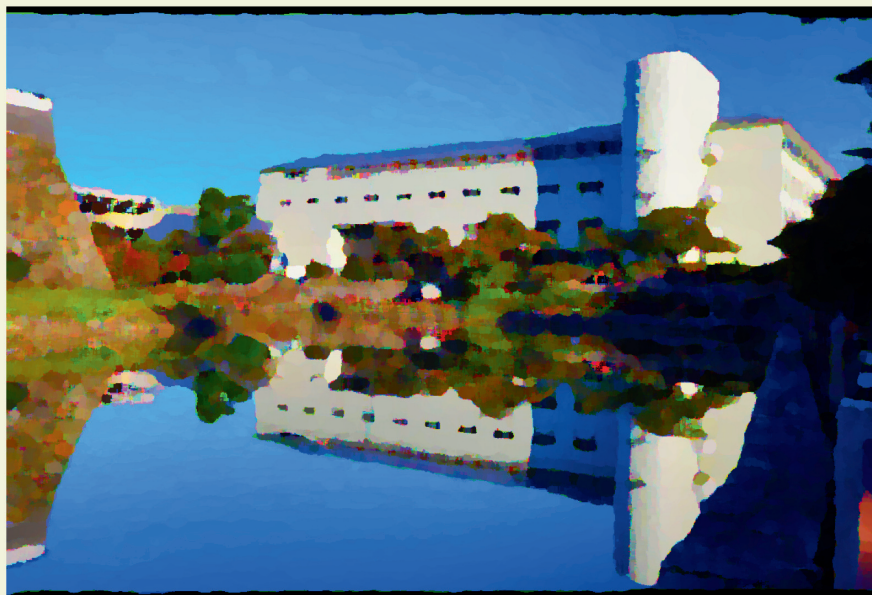
入学年度 コース・類型 学年		R6										備考
		文科(人文社会国際系)					理科(理数探究系)					
		I	II	Ⅲ	IV	計	I	II	Ⅲ	IV	計	
教科	科目											
国語	現代の国語	2				17	2				14	
	言語文化	3					3					
	古典探究		3	4				2	3			
	(学)現代文探究		2	3				2	2			
地理歴史	地理総合	2				8	2				6	2年次2*から文科2科目、理科1科目選択
	地理探究		2*					2*				
	歴史総合	2					2					
	日本史探究		2*					2*				
	世界史探究		2*					2*				
公民	公共		2			2~8		2			2, 5	
	倫理			3▽					3▽			
	政治・経済			3▽					3▽			
数学	数学Ⅰ					0~2						[理数数学Ⅰ]により3単位代替
	(学)数学記述演習			2△								
理科	物理基礎					2						[理数基礎物理Ⅱ]により2単位代替 [理数基礎化学Ⅱ]により2単位代替 [理数基礎生物Ⅱ]により2単位代替 [理数基礎地学Ⅱ]により2単位代替 1▲より2科目選択
	化学基礎											
	生物基礎											
	地学基礎											
	(学)物理演習			1▲								
	(学)化学演習			1▲								
	(学)生物演習			1▲								
保健体育	体育	2	2	3		9, 11	2	2	3		9	
	保健	1	1				1	1				
	(学)発展体育			2△								
芸術	音楽Ⅰ・美術Ⅰ・書道Ⅰ	2				2, 4	2				2	
	音楽Ⅱ・美術Ⅱ・書道Ⅱ			2△								
外国語	英語コミュニケーションⅠ											[総合英語Ⅰ]により3単位代替
家庭	家庭基礎		2			2		2			2	
情報	情報Ⅰ					0, 2						[国際情報Ⅱ]により2単位代替
	(学)情報演習			2△								
理数	理数探究											[文理課題研究Ⅱ]により2単位代替
家庭	フードデザイン			2△		0, 2						
理数	理数数学Ⅰ	5				21~23	5				39	3年次理科は○・■のグループより1つ選択 3年次理科は4★より1科目選択
	理数数学Ⅱ		6					7				
	理数数学特論								■3			
	理数物理							2				
	理数化学							2				
	理数生物							2				
	(学)理数数学Ⅱβ演習								■4			
	(学)理数数学Ⅰ総合演習			2					○2			
	(学)理数数学Ⅱ総合演習			2△					○2			
	(学)理数数学記述演習								○3			
	(学)理数基礎物理	2					2					
	(学)理数基礎化学	2					2					
	(学)理数基礎生物	2					2					
	(学)理数基礎地学		2									
	(学)理数発展物理								4★			
	(学)理数発展化学								4			
	(学)理数発展生物								4★			
英語	総合英語Ⅰ	3				20	3				16	
	総合英語Ⅱ		5					5				
	総合英語Ⅲ			6					6			
	ディベート・ディスカッションⅠ	2					2					
	(学)異文化理解		2									
国際人材	(学)骨太英語			2		6~12					6~9	
	(学)ゼレンディビティ	1					1					
	(学)国際情報	2					2					
	(学)文理課題研究		2					2				
	(学)キャリアスタートゼミ			1					1			
	(学)GG			3▽					3▽			
	(学)GHJ			3▽					3▽			
(学)GHW			3▽				3▽					
教科・科目の計		33	33	33		99	33	33	33		99	
総合的な探究の時間		0	0	0			0	0	0			[ゼレンディビティ][理数探究(文理課題研究)]で3単位代替
特別活動 ホームルーム活動		1	1	1		3	1	1	1		3	
総 計		34	34	34		102	34	34	34		102	
選択の方法		3年次に2△より2科目選択 ただし「音楽Ⅱ」「美術Ⅱ」「書道Ⅱ」は、1年次にそれぞれ「音楽Ⅰ」「美術Ⅰ」「書道Ⅰ」を履修している場合に限り選択できる 3年次に3▽より2科目選択 ただし「GG」「GHJ」「GHW」は、2年次にそれぞれ「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」を履修している場合に限り選択できる					3年次は3▽より1科目選択 ただし「GG」「GHJ」「GHW」は、2年次にそれぞれ「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」を履修している場合に限り選択できる					

教育課程表【令和7年度入学生】

全日制の課程 文理学科 教育課程実施計画

(入学年度別、類型別、教科・科目等単位数)

入学年度 コース・類型 学年		R7										備考
		文科(人文社会国際系)					理科(理数探究系)					
		I	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	計	I	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	計	
教科	科目											
国語	現代の国語	2				17	2				14	
	言語文化	3					3					
	古典探究		3	4				2	3			
	(学)現代文探究		2	3				2	2			
地理歴史	地理総合	2				8	2				6	2年次2*から文科2科目、理科1科目選択
	地理探究		2*					2*				
	歴史総合	2					2					
	日本史探究		2*					2*				
	世界史探究		2*					2*				
公民	公共		2			2~8		2			2, 5	
	倫理			3▽					3▽			
	政治・経済			3▽					3▽			
数学	数学Ⅰ (学)数学記述演習			2△		0~2						「理数数学Ⅰ」により3単位代替
理科	物理基礎					2					1	「理数基礎物理」により2単位代替 「理数基礎化学」により2単位代替 「理数基礎生物」により2単位代替 「理数基礎地学」により2単位代替 1▲より2科目選択
	化学基礎											
	生物基礎											
	地学基礎											
	(学)物理演習			1▲								
	(学)化学演習			1▲								
	(学)生物演習			1▲								
保健体育	体育	2	2	3		9, 11	2	2	3		9	
	保健	1	1				1	1				
	(学)発展体育			2△								
芸術	音楽Ⅰ・美術Ⅰ・書道Ⅰ	2				2, 4	2				2	
	音楽Ⅱ・美術Ⅱ・書道Ⅱ			2△								
外国語	英語コミュニケーションⅠ											「総合英語Ⅰ」により3単位代替
家庭	家庭基礎		2			2		2			2	
情報	情報Ⅰ (学)情報演習					0, 2						「国際情報」により2単位代替
				2△								
理数	理数探究											「文理課題研究」により2単位代替
家庭	フードデザイン			2△		0, 2						
理数	理数数学Ⅰ	5				21~23	5				39	3年次理科は○・■のグループより1つ選択 3年次理科は4★より1科目選択
	理数数学Ⅱ		6					7				
	理数数学特論								■3			
	理数物理							2				
	理数化学							2				
	理数生物							2				
	(学)理数数学Ⅱβ演習									■4		
	(学)理数数学Ⅰ総合演習			2						○2		
	(学)理数数学Ⅱ総合演習			2△						○2		
	(学)理数数学記述演習									○3		
	(学)理数基礎物理	2					2					
	(学)理数基礎化学	2					2					
	(学)理数基礎生物	2					2					
	(学)理数基礎地学		2									
	(学)理数発展物理									4★		
英語	(学)理数発展化学								4			
	(学)理数発展生物								4★			
	総合英語Ⅰ	3				20	3				16	
	総合英語Ⅱ		5					5				
	総合英語Ⅲ			6					6			
ディベート・ディスカッションⅠ	2				2							
(学)異文化理解		2										
国際人材	(学)骨太英語			2								
	(学)ゼレンディビティ	1				6~12	1				6~9	
	(学)国際情報	2					2					
	(学)文理課題研究		2					2				
	(学)キャリアスタートゼミ			1					1			
	(学)GG			3▽					3▽			
	(学)GHI			3▽					3▽			
(学)GHW			3▽					3▽				
教科・科目の計		33	33	33		99	33	33	33		99	
総合的な探究の時間		0	0	0			0	0	0			「ゼレンディビティ」「理数探究」「文理課題研究」で3単位代替
特別活動 ホームルーム活動		1	1	1		3	1	1	1		3	
総 計		34	34	34		102	34	34	34		102	
選択の方法		3年次に2△より2科目選択 ただし「音楽Ⅱ」「美術Ⅱ」「書道Ⅱ」は、1年次にそれぞれ「音楽Ⅰ」「美術Ⅰ」「書道Ⅰ」を履修している場合に限り選択できる 3年次に3▽より2科目選択 ただし「GG」「GHI」「GHW」は、2年次にそれぞれ「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」を履修している場合に限り選択できる					3年次は3▽より1科目選択 ただし「GG」「GHI」「GHW」は、2年次にそれぞれ「地理探究」「日本史探究」「世界史探究」を履修している場合に限り選択できる					



スーパーサイエンスハイスクール
基礎枠 実践型 第Ⅲ期 4年次



大阪府立岸和田高等学校



協創型「温故知新プログラム」
Kishiwada HELIX



SSH探究
Web Site



岸和田高校
Web Site



岸和田高校
Instagram

スーパーサイエンスハイスクール
研究実施開発報告書
編集発行：SSH探究部
発行日：令和8年(2026年) 3月